

平成 26 年度

順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科 修士論文

大学におけるスポーツを通じた学生支援の在り方

氏 名 片山 洋平

論文指導教員 小笠原 悦子

合格年月日 平成 27 年 2 月 23 日

論文審査員 主査 北井 薫

副査 工藤 康彦

副査 小笠原 悦子

目 次

第1章 緒言

第1節 研究の背景	1
第2節 研究の必要性	3
第3節 用語の定義	4
第1項 学生支援	4
第2項 レクリエーション・ディパートメント	4
第3節 スポーツに関する学生支援	4
第4項 一般学生	4

第2章 先行研究

第1節 大学生のスポーツ機会	5
第2節 大学スポーツ施設	5
第1項 大学のスポーツ施設の現状	5
第2項 大学スポーツ施設の利用条件	6
第3節 サークル活動	7
第1項 サークル活動への支援	7
第2項 サークル活動に関する研究	7
第4節 レクリエーション・ディパートメント	8
第5節 Importance-Performance (IP) 分析	9
第6節 先行研究のまとめ	10
第7節 問題の所在	11
第8節 研究の目的	12
第9節 リサーチ・クエスチョン	12

第3章 研究方法

第1節 研究1 (ウェブサイト調査)	13
第1項 調査の概要	13
第2項 調査対象	13
第3項 スポーツに関する学生支援についての情報の抽出方法	14
第4項 分析方法	14

第2節 研究2（質問紙調査）	14
第1項 調査の概要	14
1. 調査内容	14
2. 質問項目	14
1) 尺度の検討	14
2) SSQRS について	15
3) バックトランスレーション	18
4) プレテスト	18
5) 回答方法	18
第2項 調査の流れ	19
1. 調査対象者の選定	19
1) 調査対象大学	19
2) 調査対象者	19
2. 質問紙の配布	19
3. 大学の種類別の有効回答数と個人的属性	20
1) 大学の種類別の有効回答数	20
2) 大学の種類別の個人的属性	20
(1) 国公立大学の個人的属性	21
(2) 私立大学の個人的属性	21
(3) スポーツ系大学の個人的属性	22
(4) 非スポーツ系大学の個人的属性	22
第3項 分析方法	22
第4章 結果	
第1節 研究1（ウェブサイト調査）の結果	23
第1項 スポーツに関する学生支援の現状と分類	23
第2項 大学のタイプ間内でのスポーツに関する学生支援の比較	24
1. 国公立大学と私立大学の比較	24
2. スポーツ系大学と非スポーツ系大学の比較	25
第2節 研究2（質問紙調査）の結果	26
第1項 スポーツに関する学生支援が基準以上の大学と基準以下の大学	26

1. スポーツに関する学生支援が基準以上の大学と基準以下の大学の分類方法	26
2. スポーツに関する学生支援が基準以上の大学と基準以下の大学の数	26
3. スポーツに関する学生支援が基準以上の大学と基準以下の大学の有効回答数と 個人的属性	27
第2項 SSQRS の日本における因子構造の確認	28
第3項 SSQRS の信頼性	28
1. 実施度に関する信頼性	29
2. 重要度に関する信頼性	29
3. SSQRS の信頼性のまとめ	30
第4項 大学のタイプ別による結果	30
1. タイプ1（国公立、私立）の結果	30
1) 国公立大学	30
2) 私立大学	32
2. タイプ2（スポーツ系、非スポーツ系）の結果	34
1) スポーツ系大学	34
2) 非スポーツ系大学	36
3. タイプ3（スポーツに関する学生支援が基準以上、スポーツに関する学生支援 が基準以下）の結果	38
1) スポーツに関する学生支援が基準以上の大学	38
2) スポーツに関する学生支援が基準以下の大学	40
第3節 結果のまとめ	42
第1項 研究1の結果に関するまとめ	42
第2項 研究2の結果に関するまとめ	42
第5章 考察	
第1節 ウェブサイト調査に対する考察	44
第2節 スポーツに関する学生支援における改善点に対しての考察	45
1. Information に対する考察	46
2. Client-Employee Interaction に対しての考察	46
3. Physical Change に対しての考察	47
4. Ambient Condition に対しての考察	48

5. Design に対しての考察	48
第3項 信頼性が確認されなかった因子に対しての考察	49
第6章 結論	
第1節 研究の概要	50
第2節 研究の限界	51
第3節 今後の課題	52
引用・参考文献	53
英文要約	59
謝辞	60
添付資料1 スポーツに関する学生支援の現状調査の結果	61
添付資料2 質問紙	77

図・表リスト

図 1.	大学数と 18 歳人口の推移	1
図 2.	IP 分析のプロット図 (1)	9
図 3.	IP 分析のプロット図 (2)	10
図 4.	国公立大学の IP 分析	31
図 5.	私立大学の IP 分析	33
図 6.	スポーツ系大学の IP 分析	35
図 7.	非スポーツ系大学の IP 分析	37
図 8.	スポーツに関する学生支援が基準以上の大学の IP 分析	39
図 9.	スポーツに関する学生支援が基準以下の大学の IP 分析	41
表 1.	研究 1 における種類別の大学数	13
表 2.	SSQRS の因子の定義	15
表 3.	SSQRS の局面、因子、質問項目の一覧	16, 17
表 4.	研究 2 における種類別の大学数	19
表 5.	大学の種類別における有効回答数	20
表 6.	タイプ 1、タイプ 2 の大学のサンプルの個人的属性	21
表 7.	スポーツに関する学生支援の分類	23
表 8.	スポーツに関する学生支援の分類基準	24
表 9.	国公立/私立大学によるスポーツに関する学生支援の設定割合と χ^2 検定の結果	25
表 10.	スポーツ系/非スポーツ系大学によるスポーツに関する学生支援の設定割合と χ^2 検定の結果	26
表 11.	タイプ 3 の大学のサンプルの個人的属性	27
表 12.	SSQRS の実施度と重要度に関する 11 因子の平均値と標準偏差と信頼性	29
表 13.	国公立大学の実施度と重要度の平均値と平均値の差の結果	32
表 14.	私立大学の実施度と重要度の平均値と平均値の差の結果	34

表 15.	スポーツ系大学の実施度と重要度の平均値と平均値の差の結果	36
表 16.	非スポーツ系大学の実施度と重要度の平均値と平均値の差の結果	38
表 17.	スポーツに関する学生支援が基準以上の大学の実施度と重要度の平均値と平均値の差の結果	40
表 18.	スポーツに関する学生支援が基準以下の大学の実施度と重要度の平均値と平均値の差の結果	42

第1章 緒言

第1節 研究の背景

近年日本の大学は少子化と大学数の増加のため、学生の確保が困難になり、経営難に陥る大学が数多く存在する¹⁴⁾。図1は平成3年からの大学数と18歳人口の推移を示したものであるが、大学数は年々増える一方、18歳人口は年々減少している³⁴⁾³⁵⁾。

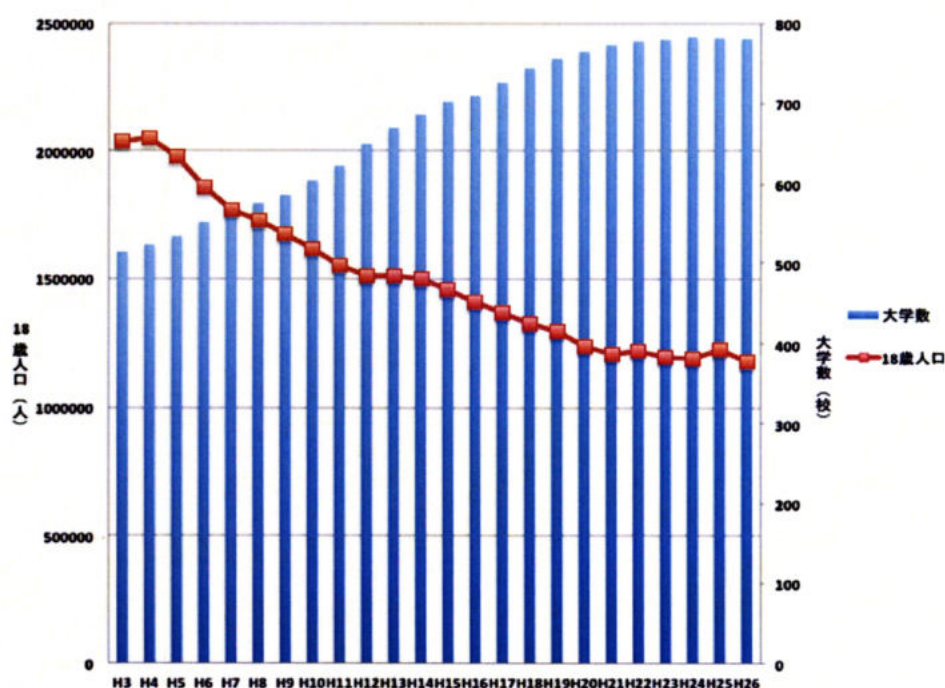


図1. 大学数と18歳人口の推移

(文部科学省³⁴⁾³⁵⁾を参考に筆者作成)

そのため、特に私立大学での入学定員未充足率は平成10年度には8%だったのが、平成26年度には45.8%になり、約半数の私立大学が定員を下回る学生数しか確保できていない状況である⁵³⁾。また、2011年度の帰属収支差額がマイナスになっている私立大学・短期大学は全体の42%もあり、半数近くの私立大学・短期大学が赤字経営を余儀なくされている¹⁴⁾。日本の大学は学生納付金収入に依存する割合が高いため、入学者数の減少は大学経営を苦しくする⁵⁰⁾。したがって、学生の安定確保や中途退学者を出さないことは特に日本の大学で重要な課題である⁴⁰⁾⁵⁴⁾。

坂本⁶⁰⁾によれば、学生を確保するためにも「大学は、学生の実態を把握し、学生の要求や不満、提案などを汲み取り、学生のニーズ、状況に対応した大学教育・学生サービスを提供することが重要となっている」(p.106)とあるように、具体的な取組が求められている³⁶⁾。その具体的な取組として学生支援が挙げられる。荷方ら³⁸⁾は学生支援とは学生がもつニーズへの取り組みと定義している。また、中央教育審議会大学分科会³⁾においても、学生からの多様なニーズに対応する学生支援の在り方や支援方策について検討されている。2000年に文部省³¹⁾は「大学における学生生活の充実方策について」という報告書の中で、多様な学生に対応するため教員中心の大学から、学生中心の大学への転換や、正課外活動を見直す必要があるとした⁴⁶⁾⁶⁰⁾。報告書の公表以降、文部科学省³²⁾は2007年から、「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム(学生支援GP)」を実施し、入学から卒業までを通じた組織的かつ総合的な学生支援のプログラムをサポートしている。学生支援GPでは「修学支援、学生相談、就職支援、健康支援・メンタル支援、経済的支援、課外活動支援、学生生活上の支援、留学生への支援、障害のある学生への支援など」がサポート領域として挙げられる。しかし、平成19、20年度に学生支援GPに採択された大学の学生支援プログラムは64件あったが、その中に一般学生を対象としたスポーツに特化した学生支援プログラムは見当たらなかった⁴³⁾。

一方、アメリカには学生支援の一つとして、一般学生や教職員、地域住民を対象に様々なスポーツ施設やプログラムのサービスを提供する「レクリエーション・ディパートメント(Recreation Department)」という組織が存在する。小倉⁴³⁾によると、レクリエーション・ディパートメントは様々なレベルのプログラムを提供するだけでなく、施設も早朝から深夜まで解放し、学生が好きな時間にやりたいプログラムに参加できるサービスを提供している。

しかし、日本の大学でのスポーツに関する学生支援は、公認サークルへの補助金の供出等に留まっており、レクリエーション・ディパートメントのような組織的に年間を通じて一般学生が在学中、スポーツや運動が出来る環境を提供している大学は、あまりないのが現状である¹⁶⁾⁴³⁾。

また、文部科学省³³⁾は2012年に策定したスポーツ基本計画において「できる限り早期に、成人の週1回以上のスポーツ実施率が3人に2人(65%程度)、週3回以上のスポーツ実施率が3人に1人(30%程度)となることを目標とする」と掲げた。実際に年々スポーツ実施率は上昇しているが、平成24年度で成人の週1回以上のスポーツ実施率は47.5%と目標には達していない³⁴⁾。また、総務省⁵⁶⁾が2011年に行った調査によると、1986年から2011年の25年間にかけてスポーツをする人の割合は、20～24歳で22.2%減、25～29歳で19.7%減と低下しており、20代のスポーツ離れが他の世代と比べて最も進んでいる。今後スポーツ実施率を向上させるためにも20代前半である大学生のスポーツ実施率を向上させることが重要であり、大学生を対象としたスポーツを習慣化するためのマーケティング戦略を考えることが有効であると思われる⁵⁷⁾。

マーケティング戦略を考える上で注目されている手法にImportance-Performance(IP)分析という方法がある。IP分析は顧客のサービスに対するパフォーマンス(実施度)と重要性(重要度)を測定することで、サービスの強みや弱み、改善すべき点を把握するマーケティングの手法で、分野の異なる様々な領域(健康、教育、産業、ツーリズムなど)で利用されている²⁾⁴⁹⁾。

第2節 研究の必要性

学生確保に苦勞している日本の大学は、学生をより多く確保するために、学生のニーズを把握し、それに応えるような学生支援を行うことが重要になってくる⁵⁰⁾。本研究で着目している一般学生向けのスポーツに関する学生支援は、日本ではあまり行われていない⁴³⁾。また、競技力を重視した大学スポーツに関する研究¹⁵⁾¹⁶⁾や記述²⁹⁾⁴⁵⁾⁶²⁾は見られるが、一般の大学生を対象としたスポーツに関する研究に関してもほとんど見られない。

一方、アメリカの大学に存在するレクリエーション・ディパートメントが提供するスポーツに関するサービスは、学生の募集や退学防止にポジティブな影響を与えていることが報告されている²⁵⁾。

そこで、日本の大学におけるスポーツに関する学生支援についての現状やニーズの把握、またマーケティング戦略を検討することは、学生確保に苦しむ大学にとって有用であると考

えられる。また、スポーツに関する学生支援を検討することで、大学生のスポーツ実施機会が創出され、スポーツ実施率が向上し、スポーツ基本計画の政策目標の達成に貢献できると考えられる。

第3節 用語の定義

第1項 学生支援

学生支援とは、学生が大学に入学してから卒業するまでに、充実した学生生活を送り人間性豊かな社会人になるため、大学が学生の様々なニーズに答えた取り組みとする³²⁾³⁸⁾。

第2項 レクリエーション・ディパートメント (Recreation Department)

レクリエーション・ディパートメントとは、一般学生や教職員、地域住民へ向けた様々なスポーツプログラムやサービスを提供し、それらを通して参加者の成長を促進する機会を与える大学の一つの組織とする⁴³⁾。

第3項 スポーツに関する学生支援

スポーツに関する学生支援とは、体育会やスポーツ系サークル・同好会を含む、スポーツをする機会や施設を提供する学生支援とする。

第4項 一般学生

本研究における一般学生は、体育会やスポーツ系サークル（同好会）に所属していない学生のこととする。

第2章 先行研究

第1節 大学生のスポーツ機会

内閣府³⁷⁾が2009年に実施した調査によると、20代のスポーツ実施率が最も低かった。そこで杉本・渡部⁵⁷⁾は、若者のスポーツ実施率を向上させるために、スポーツ実施環境が大きく変化する年齢層である大学生を対象に、スポーツ実施に対する目的、動機および体育の効果について調査を行った。その結果、学生はスポーツ実施に際して健康維持・増進やストレス解消といった心身の健康状態に対する目的が高く、仲間がいるということや時間的に余裕があるということがスポーツを実施する条件であることが明らかとなった。また、スポーツを実施する仲間や時間の確保の方法といった具体的な情報を提供することがスポーツ実施率を向上させるために有益であると述べている。

Forrester et al.⁴⁾によれば、大学生の間にスポーツをする習慣を身につけている学生は、大学を卒業してからもスポーツをし続けると述べている。大学生のスポーツ実施に貢献する方法として体育の授業が考えられる。実際、体育の授業を利用して定期的にスポーツを実施し、学生に対してポジティブな影響を与えているという結果も出ている⁴⁾⁵⁷⁾。しかし、運動を実施していない者の約7割は「時間割の都合」や「履修する気持がない」、「必要でない」という理由で、体育の授業を履修しようと思わなかったという結果から、授業とは別にスポーツ振興のための方法を考える必要があると述べている⁴⁾。

また、スポーツを実施していない大学生の多くは「時間がない」や「機会がない」、「施設がない」という理由でスポーツを実施していないだけで、条件が整い、阻害要因が解決されればスポーツを実施する可能性があることから、大学生を対象としたスポーツを習慣化するためのマーケティング戦略を考えることが有効であると述べられている¹³⁾³⁰⁾⁴¹⁾⁵⁷⁾。

さらに小倉⁴³⁾は、大学内でスポーツが学生の学びの成果に貢献できるといった発想はあまりなく、一般学生が入学から卒業までスポーツのできる環境が実現できていないと述べている。

第2節 大学スポーツ施設

第1項 大学スポーツ施設の現状

大学側は学生を確保するためにも、ブランド力を重視した特色ある大学経営に力を入れるようになった。その中でも、スポーツに力を入れる大学が多く、スポーツ施設を充実させることで現役の学生でありながら全日本や世界大会で活躍する学生を受け入れ、大学の

アピールを行っている⁵⁹⁾。

施設が充実してきている中で、スポーツ系学部や研究科を持つ大学だけでなく、様々な大学で学生がスポーツ教室やイベントを運営するケースも出てきている。また、充実した施設・設備、教員や学生といった人材がそろっている大学は、地域住民へ向けた公開講座を行ったり体育施設の開放をおこなったりしているが、学生任せの管理体制や管理の専門家の不在により、スポーツ施設を有効活用できていない状況にある¹¹⁾⁵⁹⁾⁶¹⁾。

一方、海外の大学はというと、デンマークの大学では学生が課外活動でスポーツ施設を利用する際、スポーツ活動サービスを担当する組織が施設の管理やプログラムの提供を行ったりしている⁶¹⁾。

またイギリスでは、オリンピックやパラリンピック等のキャンプ地として大学スポーツ施設を活用し、カナダの大学では、大学と地域、そしてスポンサーと連携することで地域に開かれたスポーツ教室を大学が中心に行っている事例も報告されている²¹⁾⁴⁴⁾。

さらに、アメリカの大学では正課体育である“Physical Education”と一般学生や教職員、地域住民のための余暇スポーツである、“Recreational Sports”、学内対抗戦の“Intramural Sports”、そして大学間対抗戦である“Intercollegiate Sports”の4種類のスポーツ活動があり、Physical Education と Recreational Sports の施設は教室などの近くに、Intramural Sports と Intercollegiate Sports の施設はキャンパス周辺部に配置されている。また、Physical Education と Recreational Sports、そして Intramural Sport 用の施設は大学が管理し、Intercollegiate Sports 用の施設の多くは“Athletic Department”という組織によって運営されている¹¹⁾。

第2項 大学スポーツ施設の利用条件

五十嵐¹²⁾は体育館利用促進の因子として体育館を利用する条件に関する「利用条件」、用具の貸し出しに関する「貸出環境」、施設の使い勝手に関する「施設快適性」、そして場所の独占に関する「占有利用」の4つの因子を規定し、男女で差の検討を行った。その結果、男女共に施設の快適性や用具の貸し出し状況に影響を受ける一方、女性は男性よりも占有的に体育館を利用できるかどうかに影響を受ける結果となった。そのため気軽に用具を借りられ、独占的に利用できる環境を提供することが女性の施設利用率向上につながるのではないかと述べている。

また、スポーツ施設を利用している人は、「スタッフの対応」および「施設の清掃・管理」

については高い評価をしているが、「利用手続き」と「施設からの情報提供」に関しては評価が低く、改善の必要があると述べている。さらに施設の利用中断者は「利用時間帯」と「利用手続き」、「施設からの情報提供」、そして「利用料金」の評価が低かったことが、利用するのをやめた理由になっていると述べている²³⁾。

服部ら⁹⁾は、指導者を対象に大学スポーツ施設の利用に関する調査を行っている。その結果、大学スポーツ施設の利用をためらう要因として、「手続きの煩雑さ」、「情報不足」が挙げられた。

第3節 サークル活動

第1項 サークル活動への支援

日本学生支援機構³⁹⁾は公認サークルに対して行っている支援の調査を行った結果、「施設・物品の供与及び貸与」が最も多く、次いで「施設・設備の整備」、「経費の補助」、「公認サークルを通じて地域に貢献」、「公認サークルへの参加の推奨」、「試合結果などの学内広報・応援参加の推奨」、「発表活動の支援」、「事故に対応する保険の加入指導」、「専属指導者の招聘・費用負担」、「事故防止のためガイダンス、説明会、研修会の実施」、「リーダー養成セミナーの実施」、そして「危機管理マニュアルの制定」の順となった。

大学のタイプ別に見ると、「施設・物品の供与及び貸与」に関しては、国立大学(100%)、公立大学(90.1%)、私立大学(96.2%)ともほぼ全ての大学が実施しており、「リーダー養成セミナーの実施」に関しては国立大学が、「専属指導者の招聘・費用負担」に関しては私立大学が盛んに行われていた。しかし、大学のサークル活動への支援に対して学生は十分に認識していないことも報告されている³⁹⁾⁵²⁾。

また、小貫¹⁸⁾は大学の学生支援活動の統括者に対してアンケート調査を行った結果、サークル活動の支援に対して専門的な人材を配置していない大学が半数以上あることが明らかとなった。

第2項 サークル活動に関する研究

サークル活動は、友情、責任感、協調性など学生の人間形成に大いに貢献し、教育上重視されており、大学はサークル活動に人間関係調整能力の開発、技能・技術の開発、理念的思考力の開発、社会規範の取得があると整理されている⁶⁾²⁴⁾。

横山⁶⁴⁾は、サークルの役職者に対し何に困っているか調査したところ、「集団の統制が

困難」や「メンバーが少ない」、「自信がない」、そして「物理的不足」といったことが挙げられた。

蔵本・菊池²³⁾は体育会運動部とスポーツ系サークルの参加動機について調査した結果、スポーツ系サークルへの参加者は自由な雰囲気を求めたり、健康維持や体力の向上を目指したり、仲間との交流を求めていることが明らかとなった。

第4節 レクリエーション・ディパートメント

アメリカの大学には一般学生や教職員、地域住民を対象としたレクリエーション・スポーツを提供するレクリエーション・ディパートメントという組織が存在し、「フィットネスプログラム」や学生が自由に施設を利用できる「オープン・レクリエーション」、学内での交流を図るための「学内スポーツ大会」、日本のスポーツ系サークルのような「クラブスポーツ」、水泳などの「アクア・プログラム」、そしてキャンプやクライミングウォールなどの「アウトドア・プログラム」といったプログラムを提供し、学生の多様化したニーズに対応している⁸⁾⁴²⁾⁴³⁾。

学生支援の機能としてのレクリエーション・ディパートメントが提供するプログラムの目的は、交流の場、学生の成長、学内コミュニティの構築、健康的な余暇活動の習得、ストレス解消、社会貢献等が掲げられている⁴⁸⁾。

レクリエーション・ディパートメントが提供しているサービスは学生募集や学習環境、学生間のコミュニケーション作り、学生と大学との信頼関係作り、教育成果、そして学生の成長に重要な役割を担っていることが明らかとなっている²²⁾²⁵⁾。

また、学生はレクリエーション・ディパートメントが提供するプログラムに参加することで、幸福感やストレス管理、体力作りなどの恩恵を得ており、身体的、精神的な健康を推進し、健康的なライフスタイルに良い影響を与えている⁴¹⁾²⁶⁾⁶⁵⁾。

さらに、小倉⁴⁹⁾は、レクリエーション・ディパートメントのサービスが、スポーツ基本法前文に定めてあるスポーツの力を大学内で実践しており、学生支援 GP で推進している「学生の成長のための組織的かつ総合的な学生支援」に対して良い事例になる可能性があることから、日本の大学におけるスポーツと学生支援に対して良いモデルになると述べている。

第5節 Importance-Performance (IP) 分析

マーケティング戦略を考える上で分野の異なる様々な領域（健康、教育、産業、ツーリズムなど）で用いられている分析方法に Importance-Performance (IP) 分析という手法がある²⁾。IP 分析は 1977 年に Martilla and James²⁷⁾によって開発されたシンプルな図による分析方法で、顧客のサービスに対する実施度と重要度を同時に測定し、それに基づいてサービスの維持・改善戦略を考えるための有効な情報を得ることができる¹⁾⁴⁾⁶³⁾。

IP 分析の図は Y 軸を Importance (重要度)、X 軸を Performance (実施度)とし、X 軸と Y 軸のそれぞれの中心で軸が交差してできる 4 つの象限に対し、測定したいサービスがどの象限に配置されるかによって、サービスに対して直感的な視覚的評価と効率良い資源の分配方法に関するアドバイスを行うことができる²⁾。

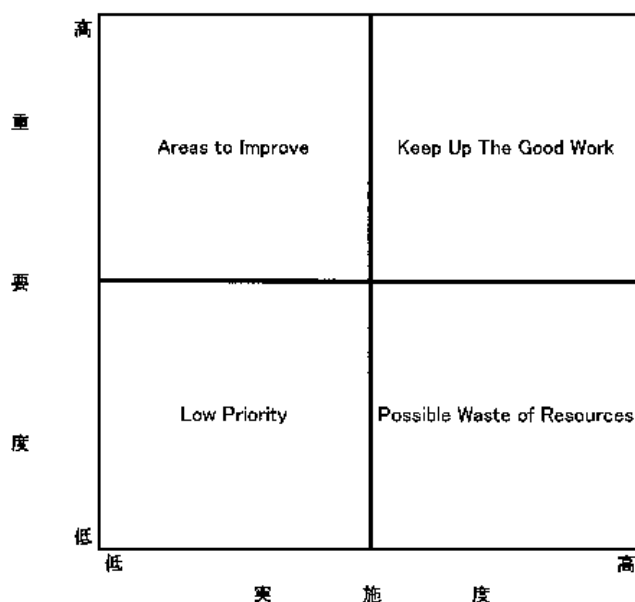


図 2. IP 分析のプロット図 (1)²⁷⁾

図 2 は IP 分析の図表を示している。山崎・長積⁶³⁾はまず初めに “Areas to Improve”、2 番目に “Possible Waste of Resources”、3 番目に “Low Priority”、最後に “Keep Up The Good Work” に配置されたサービスの順番に改善を行うのが一般的であると述べている。

しかし、X 軸と Y 軸のそれぞれの中央値で軸が交差してできる 4 つの象限を基に分析した場合、ただ単に X 軸と Y 軸の中央値で交差しただけなので、IP 分析による差別的な分析があまりできず、ほとんどのサービスが右上の Keep Up The Good Work に配置されてしまう。そこで X 軸と Y 軸の交差を、実施度と重要度のそれぞれの平均値で交差するよう

にすることで、サービスが **Keep Up The Good Work** に固まらず、他の象限にも配置されるようになり、IP 分析による差別的な分析が行えるようになると Rial et al.⁴⁹⁾は指摘している。

さらに **Keep Up The Good Work** に配置されたものの、重要度が満足度を上回ってしまう場合もあることから、Rial et al.⁴⁹⁾は 2006 年の Abalo et al.の研究を引用し、図 3 のように斜めの線を付け加えている。この斜め線が付け加えられたことで、重要度が実施度を上回っているながら **Keep Up The Good Work** に配置されるという矛盾を解決することができ、斜め線よりも上に配置されたサービスは、**Areas to Improve** となるような分析方法を開発した。

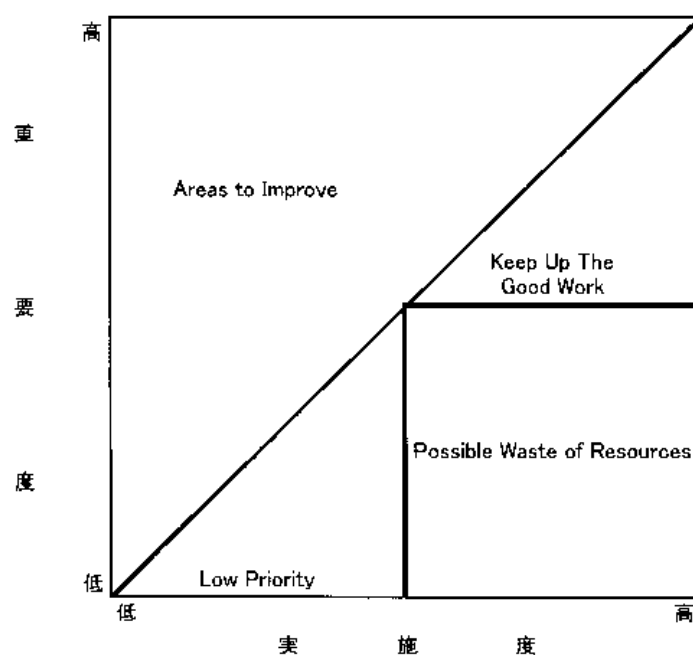


図 3. IP 分析のプロット図 (2)⁴⁹⁾

第 6 節 先行研究のまとめ

先行研究を検討した結果、以下の点が明らかとなった。

1. 大学生は健康維持・増進やストレス解消といった心身の健康の目的でスポーツ・運動実施しており、仲間がいることや時間的に余裕があることが実施条件となっている。一方、「時間がない」、「機会がない」、「施設がない」という理由でスポーツ・運動を実施しておらず、一般学生が入学から卒業までスポーツのできる環境が実現できていない。そのため、スポーツを習慣化するためのマーケティング戦略を考えることが有効であ

ると述べられている¹³⁾³⁰⁾⁴⁰⁾⁴³⁾⁵⁷⁾。

2. 大学生がスポーツ施設を利用する条件として「施設の快適性」や「用具の貸し出し」に影響を受けており、利用に際しての「手続きの煩雑さ」や「情報不足」が利用をためらう要因となっている。そのため大学スポーツ施設の利用者は「利用手続き」と「施設からの情報提供」に関しては評価が低く改善の必要があると述べられている。一方、「スタッフの対応」および「施設の清掃・管理」については高い評価をしているが、施設の管理体制が十分でないため、有効活用できていない状況にある³⁾¹¹⁾¹²⁾²⁸⁾⁵⁹⁾⁶¹⁾。
3. 日本の大学におけるサークル活動は学生の成長を目的として、様々な支援が行われている。スポーツ系サークルに参加している学生は「自由な雰囲気」を求めたり、「健康維持や体力の向上」を目指したり、「仲間との交流」を求めている。しかし、多くの大学でサークル活動の支援に対する専門的な人材が配置されておらず、学生も支援に対して十分に認識できていない⁶⁾¹⁸⁾²³⁾²⁴⁾³⁹⁾⁵²⁾。
4. レクリエーション・ディパートメントのプログラムは学生の成長を目的としており、学生は、サービスを受けることで身体的、精神的な恩恵を享受し、健康的なライフスタイルに良い影響を与えている。また、レクリエーション・ディパートメントのサービスは日本の大学のスポーツと学生支援に対して良いモデルになる可能性がある²²⁾⁴³⁾⁴⁸⁾と述べられている。
5. IP分析は実施度と重要度を同時に測定し、サービスの維持・改善戦略を考えるための有効な情報を得ることができる分析手法で、様々な分野で活用されている¹⁾²⁾⁴⁹⁾⁶³⁾。

第7節 問題の所在

アメリカの大学のレクリエーション・ディパートメントと日本の大学の学生支援は共に学生の成長を目的としている。レクリエーション・ディパートメントが提供するサービスは学生に対して様々な利益をもたらすことが明らかになっている。しかし、日本ではスポーツの力を利用して一般学生の学びの成果に結びつけるという発想があまりなく、一般学生が入学から卒業までスポーツのできる環境が実現できていない⁴³⁾。

小倉⁴³⁾は、日本の大学ではスポーツに関する学生支援が十分に行われていない中、レクリエーション・ディパートメントが提供するサービスは日本の大学のスポーツと学生支援に対して良いモデルになる可能性がある⁴³⁾と述べている。そこで、スポーツに関する学生支

援の在り方の検討を行う上で、調査・研究、多様な試行錯誤及び議論が求められている。

第8節 研究の目的

問題の所在から、本研究の目的はスポーツを通じた学生支援の在り方を検討するための基礎資料を提供する第1段階の調査・研究ということで、1) 日本の大学が学生に提供しているスポーツに関する学生支援の現状を明らかにし大学の種類ごとに比較すること、2) 大学の種類別にスポーツに関する学生支援のどのようなサービスに対して改善が求められているかを明らかにすることとした。

第9節 リサーチ・クエスチョン

そこで、本研究のリサーチ・クエスチョンを以下のように設定した。

1. 日本の大学ではどのようなスポーツに関する学生支援を設定しているのか。また、大学の種類によって違いはあるのか。
2. 大学生はスポーツに関する学生支援のどのようなサービスに対して改善を求めているのか。

第3章 研究方法

本研究は、研究1（ウェブサイト調査）と研究2（質問紙調査）によって構成されている。第1節ではウェブサイト調査についての概要や調査対象、分析方法について述べている。第2節では質問紙調査の概要や質問項目、調査対象者の検討や個人的属性、分析法などについて述べている。

第1節 研究1（ウェブサイト調査）

第1項 調査の概要

受験生が志望大学の情報を入手する手段として近年インターネットの占める割合が増えている¹⁹⁾。そこで研究1では、日本の大学のウェブサイトを開覧し、各大学が体育会やスポーツ系サークル（同好会）、そして一般学生向けに行っている、スポーツに関する学生支援の現状を明らかにした。また、大学を4種類に分類し、スポーツに関する学生支援の違いについても検討した。

第2項 調査対象

研究1での調査対象は、2014年3月時点で学校ポータル情報サイト“Knowledge Station”（ナレッジステーション）に掲載されていた4年制大学753大学を対象とした。本研究では、大学を2タイプ4種類に分類し、タイプ間で比較することから、タイプ1を「国公立大学」（166校）と「私立大学」（587校）の2種類、タイプ2を「スポーツ系大学」（138校）と「非スポーツ系大学」（615校）の2種類にタイプ分けをした。表1は種類別の大学数を示したものである。

なお、本研究におけるスポーツ系大学とは、スポーツ産業学研究⁵⁸⁾に掲載されている、スポーツ健康科学部や体育学部などのスポーツ系学部・学科を有する大学とし、その他の大学を非スポーツ系大学とした。

表1. 研究1における種類別大学数（ $n = 753$ ）

タイプ1	大学数(校)	タイプ2	大学数(校)
国公立	166	スポーツ系	138
私立	587	非スポーツ系	615

第3項 スポーツに関する学生支援についての情報の抽出方法

各大学のウェブサイトを開覧し、1) スポーツや運動に関する記述があること、2) 授業は含まないこと、3) 学生支援やサービスを受ける対象がスポーツや運動を行っていること、4) 学生支援やサービスの内容がスポーツや運動に関するもの、という基準を設定し、スポーツに関する学生支援についての情報を抽出した。

第4項 分析方法

研究1ではスポーツに関する学生支援の設定状況を大学のタイプ間内で比較するため、統計パッケージ SPSS21 を用いて χ^2 検定 (独立性の検定) を行った。なお、研究1では、第1種の誤りを考慮して有意水準を1%未満から設定した⁴⁷⁾。

第2節 研究2 (質問紙調査)

第1項 調査の概要

1. 調査内容

研究2では大学が実施しているスポーツに関する学生支援に対して、学生がどのようなサービスに対して改善を求めているかを把握するため、スポーツに関する学生支援の実施度と重要度を測定する質問紙調査を実施した。

2. 質問項目

1) 尺度の検討

研究2を行う上で、スポーツに関する学生支援の実施度と重要度を測定するための尺度の検討を行う際、スポーツに関する学生支援を対象にした量的研究が日本では行われていないことから、本研究のコンテキストに最も近いアメリカのレクリエーション・ディパートメントを対象とした研究で使用されている尺度を援用することにした。

そこで、どの尺度を援用するかを検討する上で、レクリエーション・ディパートメントに関して過去に行われた質問紙調査の事例を探索した。

その結果、多くの先行研究¹⁹⁾²⁰⁾⁵⁵⁾によって信頼性および妥当性が確認されている“The Scale of Service Quality in Recreational Sports” (以下 SSQRS と略す) を援用することにした。

2) SSQRS について

SSQRS はレクリエーション・ディパートメントの利用者がレクリエーションプログラムの質を評価するために Ko and Pastore¹⁹⁾によって開発された尺度である。

SSQRS は (1) プログラムの良さについて利用者の相対的な認識に関する “Program Quality”、(2) サービスの提供方法に関する “Interaction Quality”、(3) 利用者がサービスから得るものに関する “Outcome Quality”、そして (4) サービスが提供される施設や備品に関する “Physical Environment Quality” の 4 つの局面がある。また、Program Quality には①Range of Program (4 項目)、②Operating Time (3 項目)、③Information (5 項目) の 3 つ、Interaction Quality には④Client-Employee Interaction (7 項目)、⑤Inter-Client Interaction (4 項目) の 2 つ、Outcome Quality には⑥Physical Change (5 項目)、⑦Valence (4 項目)、⑧Sociability (4 項目) の 3 つ、そして Physical Environment Quality には⑨Ambient Condition (5 項目)、⑩Design (5 項目)、⑪Equipment (3 項目) の 3 つ、合計 11 因子 49 項目から構成されている。表 2 は 11 因子の定義を示したものであり、表 3 は SSQRS の局面と因子、質問項目の一覧を示した。

表 2. SSQRS の因子の定義

因子名	定 義
Range of Program (4項目)	参加者に提供するクラス/プログラムの多様性や魅力のこと
Operating Time (3項目)	利用者にとって利用しやすいスケジュールのこと
Information (5項目)	プログラムやサービスに関する最新情報を取得すること
Client-Employee Interaction (7項目)	従業員が利用者のサービスに対する評価に影響を与えること
Inter-Client Interaction (4項目)	他の利用者が利用者のサービスに対する評価に影響を与えること
Physical Change (5項目)	体力の増加やパフォーマンス、技術の向上に関すること
Valence (4項目)	サービスの結果が利用者の次回の利用に影響を与えること
Sociability (4項目)	同じ活動を楽しむ人と一緒にいることで感じる社会的満足感から生じる正の社会的な経験に関すること
Ambient Condition (5項目)	施設的环境条件のこと
Design (5項目)	施設の機能面と審美面に関すること
Equipment (3項目)	スポーツの経験を向上させるために使用される備品・道具に関すること

表 3. SSQRS の局面、因子、質問項目の一覧

局面	因子	質問項目
Program Quality	Range of Program	<p>○○大学にはさまざまな(スポーツ種目の)クラス/プログラムがある。</p> <p>○○大学は幅広い(スポーツ種目の)クラス/プログラムを提供している。</p> <p>○○大学は人気の(スポーツ種目の)クラス/プログラムを提供している。</p> <p>○○大学で提供されている(スポーツ種目の)クラス/プログラムは魅力的である。</p>
	Operating Time	<p>スポーツ施設の開始時間は都合が良い。</p> <p>(スポーツ種目の)クラス/プログラムの時間は都合が良い。</p> <p>○○大学はいくつか異なる時間帯で(スポーツ種目の)クラス/プログラムを提供している。</p>
	Information	<p>サークル(同好会)や施設管理担当の職員とは電子メールで連絡する事は簡単である。</p> <p>サークル(同好会)や施設管理の担当の職員はウェブ から簡単に問い合わせることができる。</p> <p>大学が主催するスポーツ関連活動やイベントで最新の情報を手に入れられる。</p> <p>全体的にスポーツに関する学生支援の情報は簡単に手に入れられる。</p> <p>サークル(同好会)や施設管理担当の職員は電話で簡単に連絡がとれる。</p>
Interaction Quality	Client-Employee Interaction	<p>サークル(同好会)や施設管理担当の職員は彼らの仕事についてとても豊富な知識を持っているようだ。</p> <p>サークル(同好会)や施設管理担当の職員が友好的であることを保証する。</p> <p>サークル(同好会)や施設管理担当の職員は提供されているクラス/プログラムの参加者を自ら進んでサポートしている。</p> <p>問題が起こった時には、サークル(同好会)の施設管理担当の職員は行動を起こす。</p> <p>サークル(同好会)や施設管理担当の職員は優秀である。</p> <p>サークル(同好会)や施設管理担当の職員は素早く、満足のいくように問題を処理する。</p> <p>サークル(同好会)や施設管理担当の職員はそれぞれのレクリエーションスポーツ参加者の特別な要望を認識し、物本的に対応している。</p>
	Inter-Client Interaction	<p>○○大学から提供されたプログラムの参加者は自分のプログラムのサービスの感じ方にポジティブな影響を与えている。</p> <p>○○大学から提供されたプログラムの参加者に対して、概して好感を抱いている。</p> <p>○○大学から提供されたプログラムの参加者はルールと規則を守っている。</p> <p>○○大学から提供されたプログラムの他の参加者は一員として良いプログラムのサービスの印象を与えてくれていると思う。</p>

(つづく)

表3. SSQRSの局面、因子、質問項目の一覧

局面	因子	質問項目
Outcome Quality	Physical Change	<input type="radio"/> 大学が提供する(スポーツ種目の)プログラムを利用してから、自分の身体能力のレベルが向上していると感じる
		<input type="radio"/> 大学が提供する(スポーツ種目の)クラス/プログラムは自分の身体能力を向上させるのに役立っている。
		<input type="radio"/> 大学が提供する(スポーツ種目の)クラス/プログラムを利用してから、自分の体力のレベルが向上していると感じる。
		<input type="radio"/> 大学が提供する(スポーツ種目の)クラス/プログラムに参加してから、自分の能力のレベルが向上していると感じる。
		<input type="radio"/> 大学で行っている活動は自分のスキル/パフォーマンスを向上させている。
		<input type="radio"/> 大学から得られるものについて満足している。
	Valence	大学から提供された場所(プログラム)を離れるとき、欲しかったものを手に入れたといったも感じる。
		大学から提供された場所(プログラム)を離れるとき、たいがい気分が良い。
		<input type="radio"/> 大学が提供する(スポーツ種目の)クラス/プログラムの成果について好意的に評価している。
		<input type="radio"/> 大学から提供された場所(プログラム)は多くの社会的交流の機会をもたらしてくれる。
Sociability	<input type="radio"/> 大学から提供されたプログラムの参加者間で、家族意識を感じる。	
	<input type="radio"/> 大学の(スポーツ種目の)クラス/プログラム参加を通じて、多くの友人を作った。	
	<input type="radio"/> 大学の(スポーツ種目の)クラス/プログラムでの社会的交流はとても楽しかった。	
	<input type="radio"/> 大学の施設やプログラムの雰囲気は素晴らしい。	
	<input type="radio"/> 大学の施設やプログラムの雰囲気は大学レクリエーションスポーツの場でまさに自分が探しているものである。	
	<input type="radio"/> 大学の施設は綺麗で良くメンテナンスされている。	
Physical Environment Quality	Ambient Condition	<input type="radio"/> 大学の施設の雰囲気には常に感心している。
	<input type="radio"/> 大学の施設の雰囲気は良くデザインされている。	
	<input type="radio"/> 大学の施設は安全で快適である。	
	Design	<input type="radio"/> 大学の施設は良くデザインされている。
		<input type="radio"/> 大学の施設のレイアウトは自分の目的/要求に適している。
		<input type="radio"/> 大学の施設のデザインに感心している。
Equipment	<input type="radio"/> 大学が提供する用具(エクササイズ用具やラケット等)は最新式である。	
	<input type="radio"/> 大学ではさまざまな最新のエクササイズ用具が利用可能である。	
	<input type="radio"/> 大学が提供する用具は使用可能な良い状態である。	

Ko and Pastore¹⁹⁾²⁰⁾の研究では 49 個の質問項目に対して「7 = 非常にそう思う」から、「1 = 全くそう思わない」の 7 段階尺度で回答を求めている。

3) バックトランスレーション

Ko and Pastore¹⁹⁾によって開発された SSQRS は英語のため、全ての質問項目に対して日本語への和訳を行い、さらにその日本語を英語へ英訳するバックトランスレーションを行った。

本研究におけるバックトランスレーションのプロセスには、英語がネイティブレベルであるアメリカの大学で博士号を取得した日本人 3 名とカナダで博士号を取得した日本人 1 名の、計 4 名が参加した。

まず 1 名が英語の 49 の質問項目を日本語に翻訳した。次に別の 1 名がその日本語に翻訳された質問項目を再度英語に翻訳した。最後に、残りの 2 名がバックトランスレーションされた英語の質問項目と、元の英語の質問項目とを比較検討した。その結果、Ko and Pastore¹⁹⁾が開発した英語版尺度と、本研究によって翻訳された日本語版尺度は、全ての項目において質問の意味が一致したと判断し、その後の調査に用いることとした。

4) プレテスト

本調査を行う前に質問内容においてわかりにくい表現がないかをチェックするため、本大学大学院に所属する大学院生 2 名と他大学のスポーツ系サークル (同好会) に所属する大学生 3 名に対し、プレテストを実施した。

プレテストを実施した結果、わかりにくい表現があった質問項目に関しては、パイリソンのスポーツマネジメントの専門家と原本である英語の質問項目と照らし合わせ、質問の意味が変わらないように表現方法を変更した。

5) 回答方法

質問紙調査では、各質問項目に対して、現状の実施状況にどのくらい満足しているかに関する「実施度」と、同様の質問項目に対して、どのくらい重要視しているかに関する「重要度」について回答してもらった。それぞれ、先行研究²⁰⁾と同じ 7 段階尺度で回答してもらい、実施度に関しては「7 = とても満足」から、「1 = とても不満」、重要度に関しては「7 = とても重要」から、「1 = 全く重要でない」で回答してもらった。

第2項 調査の流れ

1. 調査対象者の選定

1) 調査対象大学

研究2ではコンビニエンス・サンプリングで選出した13大学の学生に対して質問紙調査を実施した。表4は13大学の内訳を示しており、国公立大学が4校、私立大学が9校であった。また、これらの13大学は、スポーツ系大学が6校、非スポーツ系大学が7校であった。

表4. 研究2における種類別の大学数 (n = 13)

タイプ1	大学数(校)	タイプ2	大学数(校)
国公立	4	スポーツ系	6
私立	9	非スポーツ系	7

2) 調査対象者

本研究では「スポーツ系サークル（同好会）」に所属している学生に限定して調査を行った。限定した理由として、体育会に所属している学生は、本研究で用いている「レクリエーションスポーツ」に関する質問への回答が困難になることが予想されるためである。また、研究2で使用する質問項目は、アメリカのレクリエーション・ディパートメントのサービスを利用している者を対象として作成された尺度であるため、普段からスポーツに関するサービスを受けている学生が回答している。一方、日本の大学では前述したように、一般学生が入学から卒業までスポーツのできる環境が実現できていない⁴³⁾ことから、体育会に所属する学生同様、回答するのが困難になることが予想される。そこで、日本の大学においてはスポーツ系サークル（同好会）に所属する学生が日頃大学スポーツ施設を利用したり担当職員とやり取りをしたりしており、レクリエーション・ディパートメントを利用している学生に最も近いと判断したため、質問紙調査の対象とした。

2. 質問紙の配布

質問紙の配布は、調査を実施する大学のサークル（同好会）を担当している職員や筆

者の知人を通して、スポーツ系サークル（同好会）に所属する学生へ質問紙を配布するという方法で実施した。

3. 大学の種類別の有効回答数と個人的属性

1) 大学の種類別の有効回答数

研究2では、13大学のスポーツ系サークル（同好会）に所属している学生に対し289部の質問紙を配布した。回答の際の注意点として、サークルや同好会のことに関して回答してもらうよう質問紙に明記した。

本調査では13大学から、263部の回答を得ることができ、有効回答数は220部(76%)であった。表5は大学の種類別による有効回答数を示したものである。

表5. 大学の種類別の有効回答数 (n = 220)

タイプ1	有効回答数(部)	タイプ2	有効回答数(部)
国公立	21	スポーツ系	139
私立	199	非スポーツ系	81

2) 大学の種類別における個人的属性

表6は質問紙調査による大学の種類別の個人的属性を示したものである。

表 6. タイプ 1、タイプ 2 の大学のサンプルの個人的属性 (%)

		国公立 (n = 21)	私立 a (n = 199)	スポーツ系 b (n = 139)	非スポーツ系 c (n = 81)
性別	男性	57.1	77.8	82.7	63.8
	女性	42.9	22.2	17.3	36.3
学年	1回生	0	29.1	36.0	9.9
	2回生	38.1	40.2	39.6	40.7
	3回生	33.3	14.1	13.7	19.8
	4回生	28.6	16.6	10.8	29.6
学部	スポーツ系学部	4.8	17.3	23.4	3.7
	それ以外の学部	95.2	82.7	76.6	96.3
活動場所 (複数回答)	大学スポーツ施設	57.1	48.1	57.0	34.7
	大学外のスポーツ施設	66.7	49.7	54.1	46.7
	その他	0	12.7	5.9	21.3
活動頻度	週1~2回	61.9	66.7	55.4	85.0
	週3~4回	38.1	23.7	33.1	11.3
	週5回以上	0	2.5	3.6	0
	その他	0	7.1	7.9	3.8

a. 「性別」に1つ、「学部」に2つ、「活動場所」に10、「活動頻度」に1つの欠損値有り

b. 「学部」に2つ、「活動場所」に4つの欠損値有り

c. 「性別」に1つ、「活動場所」に6つ、「活動頻度」に1つの欠損値有り

(1) 国公立大学の個人的属性

国公立大学のサンプルは、性別に関しては男子学生の方が女子学生よりも多く、学年に関しては2回生が最も多く、1回生に関しては1人もいなかった。学部に関してはスポーツ系以外の学部が9割以上を占めており、活動場所は大学外のスポーツ施設の割合が最も高かった。活動頻度に関しては週1~2回程度の割合が最も高く、週5回以上は1人もいなかった。

(2) 私立大学の個人的属性

私立大学のサンプルは、性別に関して男子学生が女子学生よりも多く、学年に関しては2回生が最も多かった。学部に関してはスポーツ系以外の学部が8割以上を占めており、活動場所に関しては大学スポーツ施設と大学外のスポーツ施設の割合ほぼ同じで約5割であった。活動頻度に関しては週1~2回程度の割合が最も高かった。

(3) スポーツ系大学の個人的属性

スポーツ系大学のサンプルは、性別に関しては男子学生が8割以上を占め、学年に関しては2回生が最も多かった。学部に関してはスポーツ系以外の学部が4分の3以上を占めており、活動場所に関しては大学スポーツ施設と大学外のスポーツ施設の割合ほぼ同じで半数以上を占めていた。活動頻度に関しては週1～2回程度の割合が最も高かった。

(4) 非スポーツ系大学の個人的属性

非スポーツ系大学のサンプルは、性別に関しては男子学生が6割以上を占め、学年に関しては2回生が最も多かった。学部に関してはスポーツ系以外の学部が9割以上を占めており、活動場所に関しては大学外のスポーツ施設の割合が最も高かった。活動頻度に関しては週1～2回程度の割合が最も高く8割以上を占めていた。

第3項 分析方法

研究2では、大学の種類別（国公立、私立、スポーツ系、非スポーツ系）においてどのようなサービスに改善が求められるかを把握するため、IP分析を行った。なお、IP分析における横軸と縦軸が交差する点は、大学の種類別（国公立、私立、スポーツ系、非スポーツ系）の実施度と重要度の平均値とする。その後、因子がそれぞれの事象にプロットされた裏付けを確認するため、統計パッケージSPSS21を用いてt検定（対応ありの検定）を行い、因子の実施度と重要度の差を見た。なお、研究2では第1種の誤りを考慮して、有意水準を1%未満から設定した。

第4章 研究結果

第1節 研究1（ウェブサイト調査）の結果

第1項 スポーツに関する学生支援の現状と分類

調査に使用した753大学のウェブサイト全てを閲覧した結果、それぞれの大学で様々なスポーツに関する学生支援を設定していることが明らかとなった。

また、それぞれの大学で設定しているスポーツに関する学生支援の状況を大学のタイプ間内で比較した。その結果、「施設貸し出し」、「備品貸し出し」、「スポーツ大会」、「経済的支援」、「活動費支援」、「専門スタッフ」、「競技力向上」、「メディカルサポート」、「プログラム」、「入試制度」、「講演会」、の11カテゴリに分類することができた。しかし、いくつかのカテゴリで期待度数が5未満となり χ^2 検定が行えないことから、有識者1名と筆者が検討し11個に分類したカテゴリを、表7のように5つのカテゴリに集約した。

表7. スポーツに関する学生支援の分類

カテゴリ	内 容
施設・備品貸し出し	体育館、テニスコート、ロッカー、スポーツ用具などの貸し出し
スポーツ大会	球技大会、運動会、大学対抗戦など
経済的支援	奨学金、入学金・学費免除、減免、助成金、補助金、表彰など
競技力向上サポート	強化指定クラブ、競技力向上プログラム、カウンセリング、栄養サポート、セミナーなど
専門的サポート	専門スタッフ(アスレティックトレーナー、専属コーチ)、エクササイズプログラムなど

また、表8はスポーツに関する学生支援を5つのカテゴリに分類した基準を示している。

表 8. スポーツに関する学生支援の分類基準

カテゴリ	分類基準
施設・備品貸し出し	スポーツを行うことができる施設、グラウンド、ロッカー(専用 or 共用)、スポーツ用具や備品の貸し出しに関する記述があること。
スポーツ大会	学生が学内や学外でスポーツや運動を行うことができる機会に関する記述があること。ただし、スキー実習や海洋実習のような～実習は授業の一環であるためこのカテゴリには含まれない。
経済的支援	奨学金、入学金・学費免除、減免、助成金、補助金、表彰について、応募条件や適用条件、対象にスポーツに関する記述があること。
競技力向上サポート	学生の競技力向上につながるための取り組みや支援に関する記述があること。
専門的サポート	専門的知識が必要だったり、専門性が高い支援やサービスに関する記述があること。

第 2 項 大学のタイプ間内でのスポーツに関する学生支援の比較

1. 国公立大学と私立大学の比較

表 9 は国公立大学と私立大学の 5 つのカテゴリに分類されたスポーツに関する学生支援の設定割合と χ^2 検定の結果を示したものである。それぞれのスポーツに関する学生支援の設定割合を見てみると、国公立大学の場合、「施設・備品貸し出し」の割合 (54.8%) が最も高かった。2 番目に高かったのが「スポーツ大会」(28.3%) で、3 番目には「経済的支援」(23.5%) であった。そして「競技力向上サポート」と「専門的サポート」の割合が最も低くそれぞれ 1.2% であった。

私立大学の場合、「施設・備品貸し出し」の割合 (39.4%) が最も高かった。2 番目に高かったのが「スポーツ大会」(34.4%) で、3 番目には「経済的支援」(21.8%) で、4 番目が「競技力向上サポート」(13.3%) であった。そして「専門的サポート」の割合が最も低く 3.9% であった。

5 つのカテゴリに分類されたスポーツに関する学生支援の国公立大学と私立大学での設定割合の関係性を明らかにするために、 χ^2 検定を行った。その結果、「施設・備品貸し出し」と「競技力向上サポート」の 2 つのスポーツに関する学生支援にそれぞれ 1% 水準で統計的に有意な差が認められた。つまり「施設・備品貸し出し」においては、国公立大学の方が私立大学よりも設定している大学の割合が高かった。一方で、「競技力向上サポート」

においては、私立大学の方が国公立大学よりも設定している大学の割合が高いことが明らかとなった。

表 9. 国公立/私立大学によるスポーツに関する学生支援の設定割合と χ^2 検定の結果

学生支援	タイプ1		χ^2 検定
	国公立大学(%) (n = 166)	私立大学(%) (n = 587)	
施設・備品貸し出し	54.8	39.4	12.65 **
スポーツ大会	28.3	34.4	2.18
経済的支援	23.5	21.8	0.21
競技力向上サポート	1.2	13.3	19.90 **
専門的サポート	1.2	3.9	2.97

** $p < .01$

2. スポーツ系大学と非スポーツ系大学の比較

表 10 はスポーツ系大学と非スポーツ系大学の5つのカテゴリに分類されたスポーツに関する学生支援の設定割合と χ^2 検定の結果を示したものである。

それぞれのスポーツに関する学生支援の設定割合を見てみると、スポーツ系大学の場合、「施設・備品貸し出し」の割合（57.2%）が最も高かった。2番目に高かったのが「経済的支援」（41.3%）で、3番目には「競技力向上サポート」（32.6%）、4番目に「スポーツ大会」（26.1%）であった。そして「専門的サポート」の割合が最も低く 10.9%であった。

非スポーツ系大学の場合、「施設・備品貸し出し」の割合（39.5%）が最も高かった。2番目に高かったのが「スポーツ大会」（34.6%）で、3番目には「経済的支援」（17.9%）、4番目に「競技力向上サポート」（5.7%）であった。そして「専門的サポート」の割合が最も低く 1.6%であった。

5つのカテゴリに分類されたスポーツに関する学生支援のスポーツ系大学と非スポーツ系大学での設定割合の関係性を明らかにするため χ^2 検定を行った。その結果、「施設・備品貸し出し」、「経済的支援」、「競技力向上サポート」、そして「専門的サポート」の4つのスポーツに関する学生支援にそれぞれ 1%水準で統計的に有意な差が認められた。つまり、

「施設・備品貸し出し」、「経済的支援」、「競技力向上サポート」、「専門的サポート」において、スポーツ系大学の方が非スポーツ系大学よりも設定している大学の割合が高いことが明らかとなった。

表 10. スポーツ系/非スポーツ系大学によるスポーツに関する学生支援の設定割合と χ^2 検定の結果

学生支援	タイプ2		χ^2 検定
	スポーツ系大学 (%) (n = 138)	非スポーツ系大学 (%) (n = 615)	
施設・備品貸し出し	57.2	39.5	14.48 **
スポーツ大会	26.1	34.6	3.720
経済的支援	41.3	17.9	35.81 **
競技力向上サポート	32.6	5.7	86.00 **
専門的サポート	10.9	1.6	30.00 ** a

a 専門的サポートの検定では、Fisherの直接法を用いた。 ** p < .01

第2節 研究2（質問紙調査）の結果

第1項 スポーツに関する学生支援が基準以上の大学と基準以下の大学

1. スポーツに関する学生支援が基準以上の大学と基準以下の大学の分類方法

研究1のウェブサイトによるスポーツに関する学生支援の現状の結果から、研究2の新たな分析の枠組みとしてタイプ3を作成し、13の大学を「スポーツに関する学生支援が基準以上の大学」と「スポーツに関する学生支援が基準以下の大学」の2種類に分類した。分類方法は、各々の大学が5つのカテゴリに分類されたスポーツに関する学生支援をそれぞれ設定している場合は1、設定していない場合は0とし、全大学の合計から平均値を計算した。その結果、1.12であったことから平均値を基準とし、5つのカテゴリに分類されたスポーツに関する学生支援の設定が2以上の大学を「スポーツに関する学生支援が基準以上の大学」、1以下の大学を「スポーツに関する学生支援が基準以下の大学」と分類した。

2. スポーツに関する学生支援が基準以上の大学と基準以下の大学の数

以上の分類方法から、753大学の中でスポーツに関する学生支援が基準以上の大学は234校（31.1%）、スポーツに関する学生支援が基準以下の大学は519校（68.9%）となつ

た。一方、研究2における質問紙調査を実施した13大学の分類は、「スポーツに関する学生支援が基準以上の大学」が7校、「スポーツに関する学生支援が基準以下の大学」が6校となった。

3. スポーツに関する学生支援が基準以上の大学と基準以下の大学の有効回答数と個人的属性

スポーツに関する学生支援が基準以上の大学の有効回答数は112部、スポーツに関する学生支援が基準以下の大学は108部であった。スポーツに関する学生支援が基準以上の大学と基準以下の大学の個人的属性に関しては表11に示している。

表11. タイプ3の大学のサンプルの個人的属性 (%)

		平均以上 a	平均以下 b
		(n = 112)	(n = 108)
性別	男性	71.4	80.4
	女性	28.6	19.6
学年	1回生	39.3	13.0
	2回生	39.3	40.7
	3回生	11.6	20.4
	4回生	9.8	25.9
学部	スポーツ系学部	8.1	24.3
	それ以外の学部	91.9	75.7
活動場所 (複数回答)	大学スポーツ施設	40.2	58.3
	大学外のスポーツ施設	71.0	31.1
	その他	2.8	20.4
活動頻度	週1~2回	68.8	63.6
	週3~4回	22.3	28.0
	週5回以上	1.8	2.8
	その他	7.1	5.6

a. 「学部」に1つ、「活動場所」に5つの欠損値有り

b. 「性別」に1つ、「学部」に1つ「活動場所」に5つ、「活動頻度」に1つの欠損値有り

まず、スポーツに関する学生支援が基準以上の大学のサンプルは、性別に関しては男子学生が7割以上を占め、学年に関しては1回生と2回生の割合が同じで約4割であった。学部に関してはスポーツ系以外の学部が9割以上を占めており、活動場所に関しては大学外のスポーツ施設の割合が最も高く7割以上を占めていた。活動頻度に関しては週1～2回程度の割合が最も高く約7割を占めていた。

一方、スポーツに関する学生支援が基準以下の大学のサンプルは、性別に関して男子学生が8割以上を占め、学年に関しては2回生の割合が最も高かった。学部に関してはスポーツ系以外の学部が4分の3以上を占めており、活動場所に関しては大学スポーツ施設の割合が最も高かった。活動頻度に関しては週1～2回程度の割合が最も高く約6割以上を占めていた。

第2項 SSQRS の日本における因子構造の確認

本研究において援用したSSQRSは11因子で構成されているが、アメリカの尺度であるため日本においては因子構造が異なることが予測できたため、実施度と重要度においてそれぞれ探索的因子分析を行った。その結果、実施度における因子構造は先行研究¹⁹⁾²⁰⁾とは異なる質問項目で構成される11因子に分かれた。しかし、重要度においては10因子にしか分かれなかったため、本研究においては先行研究¹⁹⁾²⁰⁾と同じ11因子でその後の分析を実施した。

第3項 SSQRS の信頼性

本研究において援用したSSQRSの信頼性は先行研究¹⁹⁾²⁰⁾において認められていたが、アメリカにおいて英語で用いられたものであることから、本研究においても先行研究¹⁹⁾²⁰⁾と同じ11因子で実施度と重要度の信頼性の検定を行った。表12はSSQRSの実施度と重要度における平均値と標準偏差、そしてCronbach α 係数を示したものである。

表 12. SSQRS の実施度と重要度に関する 11 因子の平均値と標準偏差と信頼性

因子	実施度			重要度		
	M	SD	α	M	SD	α
Range of Program ($n = 220$)	4.65	0.86	.69	4.80	0.88	.71
Operating Time ($n = 220$)	4.57	0.89	.63	4.80	0.88	.60
Information ($n = 220$)	4.32	0.92	.72	4.67	0.87	.75
Client-Employee Interaction ($n = 220$)	4.37	0.86	.80	4.75	0.83	.78
Inter-Client Interaction ($n = 220$)	4.60	0.72	.56	4.74	0.84	.64
Physical Change ($n = 220$)	4.61	0.88	.78	4.77	0.89	.76
Valence ($n = 220$)	4.63	0.81	.62	4.78	0.85	.64
Sociability ($n = 220$)	4.72	0.86	.62	4.82	0.98	.70
Ambient Condition ($n = 220$)	4.63	0.89	.73	4.90	0.90	.72
Design ($n = 220$)	4.55	0.96	.80	4.90	0.86	.70
Equipment ($n = 220$)	4.59	1.03	.70	4.94	0.96	.61

なお、小塩⁴⁷⁾は尺度の信頼性に関して、.70 以上であれば、尺度の内的整合性が高いと判断されると述べているため、本研究における尺度の信頼性の基準値は.70 以上とした。

1. 実施度に関する信頼性

表 12 より、Information と Client-Employee Interaction、Physical Change、Ambient Condition、Design、そして Equipment の 6 因子は α 係数が .70 以上であることから質問の一貫性が確認された。一方、Range of Program(.69)と Operating Time (.63)、Inter-Client Interaction(.56)、Valence(.62)、そして Sociability(.62)の 5 因子は、.70 未満であった。そこで、有識者と筆者が調査項目を一つずつ検討した後、本研究は SSQRS を援用した第 1 段階の研究であるということから、11 因子全て引き続き分析の対象として用いることとした。

2. 重要度に関する信頼性

表 12 より、Range of Program と Information、Client-Employee Interaction、Physical Change、Sociability、Ambient Condition、そして Design の 7 因子において α 係数が .70 以上であることから質問の一貫性が確認された。一方、Operating Time (.60)と Inter-Client interaction(.64)、Valence(.64)、そして Equipment(.61) の 4 因子は .70 未満であった。そこで、有識者と筆者が調査項目を一つずつ検討した後、実施度と同様に、引き続き 11 因子を分析の対象として用いることとした。

3. SSQRS の信頼性のまとめ

SSQRS の信頼性において、Information と Client-Employee Interaction、Physical Change、Ambient Condition、そして Design の 5 因子が実施度と重要度の両方で α 係数が .70 以上であることから質問の一貫性が確認された。

第 4 項 大学のタイプ別による結果

1. タイプ 1 (国公立、私立) の結果

1) 国公立大学

まず、SSQRS の 11 因子において効果的なマーケティング戦略を進展させるための有効な情報を得ることができる分析手法である IP 分析を行った。図 4 は国公立大学の IP 分析の結果を示したものである。その結果、Ambient Condition は実施度、重要度共に平均値を上回ったので、Keep up the good work に配置された。Range of Program と Information は実施度、重要度共に平均値を下回ったので、Low Priority に配置された。Operating Time、Inter-Client Interaction、Valence、Sociability は重要度に関しては平均値を下回ったが、実施度は平均値を上回ったので、Possible Waste of Resources に配置された。そして、Client-Employee Interaction、Physical Change、Design、Equipment は重要度に関しては平均値を上回ったが実施度は平均値を下回ったので、Areas to Improve に配置された。しかし斜め線を入れると、全ての因子は Areas to Improve に配置された。

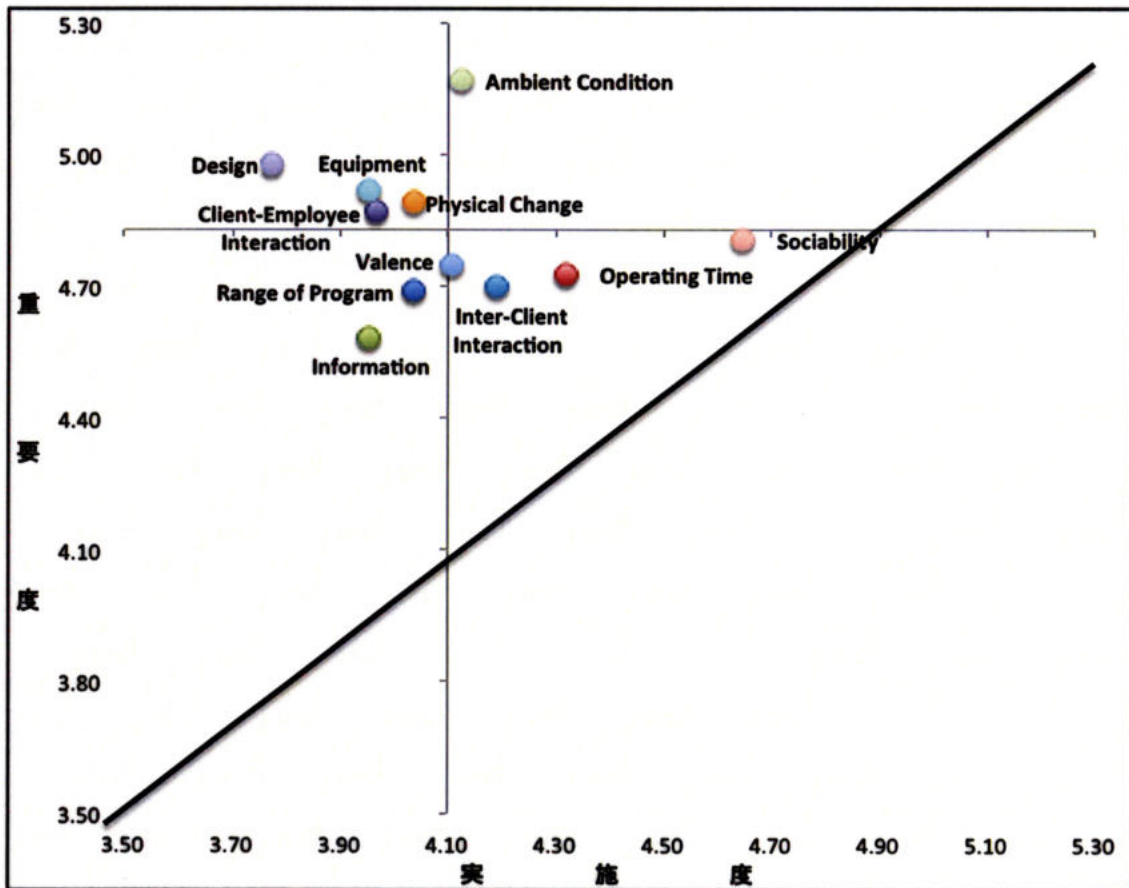


図4, 国公立大学のIP分析

次に、11 因子の実施度と重要度に差があるのかを確認するため t 検定を行った。表 13 は国公立大学の実施度と重要度の平均値と平均値の差、そして t 検定の結果を示している。その結果、Valence と Ambient Condition に 0.1%水準、Information と Client-Employee Interaction そして Design に 1%水準で統計的に有意な差が認められた。有意な差が認められた 5 つの因子は、すべて重要度が実施度を上回っていたため、t 検定からも Information、Client-Employee Interaction、Valence、Ambient Condition、Design の 5 つの因子が Areas to Improve に配置されるということが明らかとなった。

表 13. 国公立大学の実施度と重要度の平均値と平均値の差の結果

	実施度		重要度		平均値の差	t値
	M	SD	M	SD		
国公立 (n = 21)						
Range of Program	4.04	0.88	4.69	0.75	-0.65	-2.48
Operating Time	4.32	0.70	4.73	0.65	-0.41	-2.36
Information	3.95	0.78	4.58	0.79	-0.63	-3.58 **
Client-Employee Interaction	3.97	0.94	4.87	0.76	-0.91	-3.69 **
Inter-Client Interaction	4.19	0.75	4.70	0.72	-0.51	-2.23
Physical Change	4.04	1.13	4.89	0.93	-0.85	-2.83
Valence	4.11	0.75	4.75	0.62	-0.64	-4.37 ***
Sociability	4.65	1.07	4.81	1.02	-0.16	-0.77
Ambient Condition	4.12	0.84	5.17	0.65	-1.05	-4.76 ***
Design	3.77	1.10	4.98	0.94	-1.21	-3.43 **
Equipment	3.95	1.08	4.92	0.95	-0.97	-2.83

** p < .01 *** p < .001

2) 私立大学

まず、SSQRS の 11 因子において IP 分析を行った。図 5 は私立大学の IP 分析の結果を示したものである。その結果、Range of Program、Sociability、Ambient Condition、Design、Equipment は実施度、重要度共に平均値を上回ったので、Keep up the good work に配置された。Information と Client-Employee Interaction は実施度、重要度共に平均値を下回ったので、Low Priority に配置された。Inter-Client Interaction、Physical Change、Valence は重要度に関しては平均値を下回ったが、実施度は平均値を上回ったので、Possible Waste of Resources に配置された。そして Operating Time は重要度に関しては平均値を上回ったが実施度は平均値を下回ったので、Areas to Improve に配置された。しかし斜め線を入れると、全ての因子は Areas to Improve に配置された。

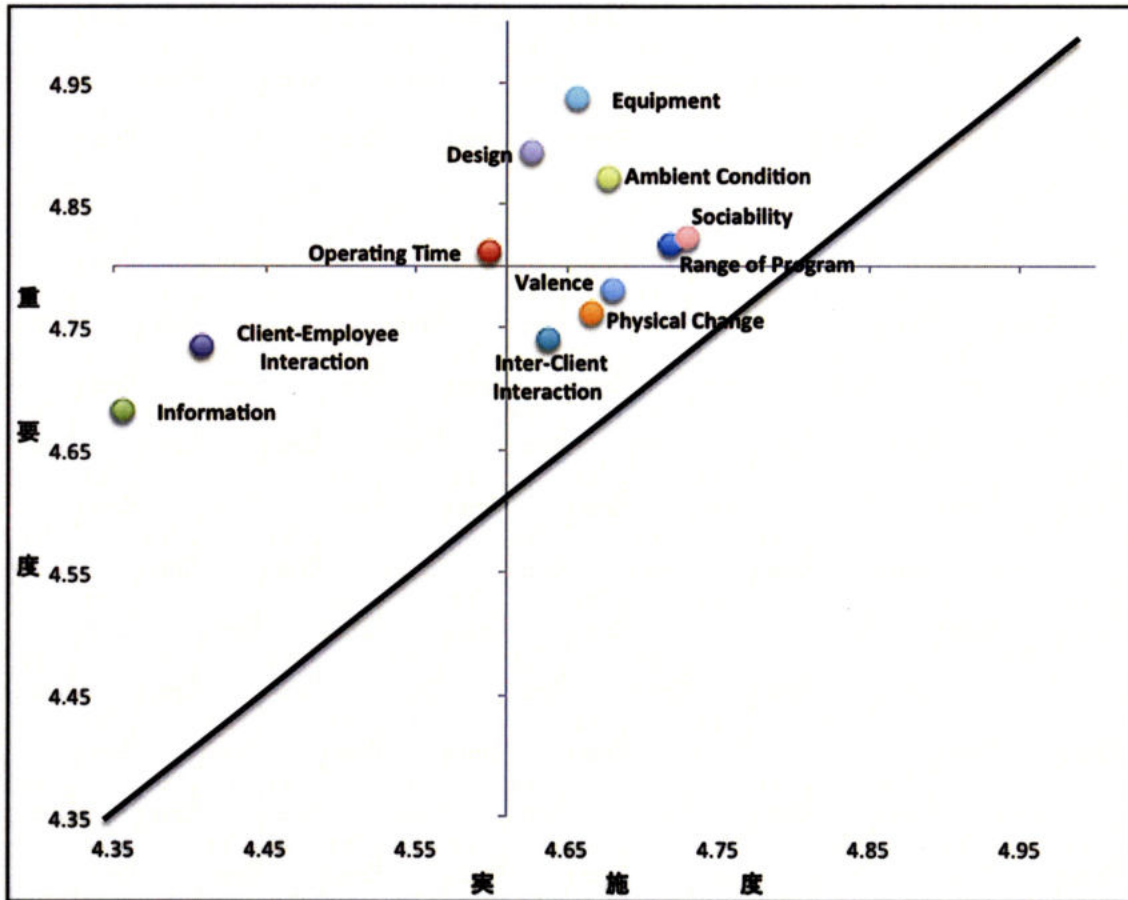


図 5. 私立大学の IP 分析

次に、11 因子の実施度と重要度に差があるのかを確認するため t 検定を行った。表 14 は私立大学の実施度と重要度の平均値と平均値の差、そして t 検定の結果を示している。その結果、Information と Client-Employee Interaction そして Design に 0.1%水準、Ambient Condition と Equipment に 1%水準で統計的に有意な差が認められた。有意な差が認められた 5 つの因子は、すべて重要度が実施度を上回っていたため、t 検定からも Information、Client-Employee Interaction、Ambient Condition、Design、Equipment の 5 つの因子が Areas to Improve に配置されるということが明らかとなった。

表 14. 私立大学の実施度と重要度の平均値と平均値の差の結果

	実施度		重要度		平均値の差	t値
	M	SD	M	SD		
私立 (n = 199)						
Range of Program	4.72	0.83	4.82	0.90	-0.10	-1.61
Operating Time	4.60	0.90	4.81	0.90	-0.21	-2.65
Information	4.36	0.93	4.68	0.88	-0.33	-4.30 ***
Client-Employee Interaction	4.41	0.84	4.73	0.84	-0.33	-4.78 ***
Inter-Client Interaction	4.64	0.71	4.74	0.85	-0.10	-1.97
Physical Change	4.67	0.83	4.76	0.88	-0.10	-1.64
Valence	4.68	0.80	4.78	0.88	-0.10	-1.76
Sociability	4.73	0.84	4.82	0.98	-0.09	-1.58
Ambient Condition	4.68	0.88	4.87	0.92	-0.19	-3.05 **
Design	4.63	0.91	4.89	0.86	-0.27	-3.62 ***
Equipment	4.66	1.00	4.94	0.96	-0.28	-3.52 **

** p < .01 *** p < .001

2. タイプ2 (スポーツ系、非スポーツ系) の結果

1) スポーツ系大学

まず、SSQRS の 11 因子において IP 分析を行った。図 6 はスポーツ系大学の IP 分析の結果を示したものである。その結果、Range of Program、Sociability、Ambient Condition、Equipment は実施度、重要度共に平均値を上回ったので、Keep up the good work に配置された。Information と Client-Employee Interaction は実施度、重要度共に平均値を下回ったので、Low Priority に配置された。Inter-Client Interaction と Valence は重要度に関しては平均値を下回ったが、実施度は平均値を上回ったので、Possible Waste of Resources に配置された。Physical Change は実施度に関しては平均値を上回ったが、重要度は平均値と同じだったので、Keep up the good work と Possible Waste of Resources の間に配置された。そして Operating Time と Design は重要度に関しては平均値を上回ったが実施度は平均値を下回ったので、Areas to Improve に配置された。しかし斜め線を入れると、全ての因子は Areas to Improve に配置された。

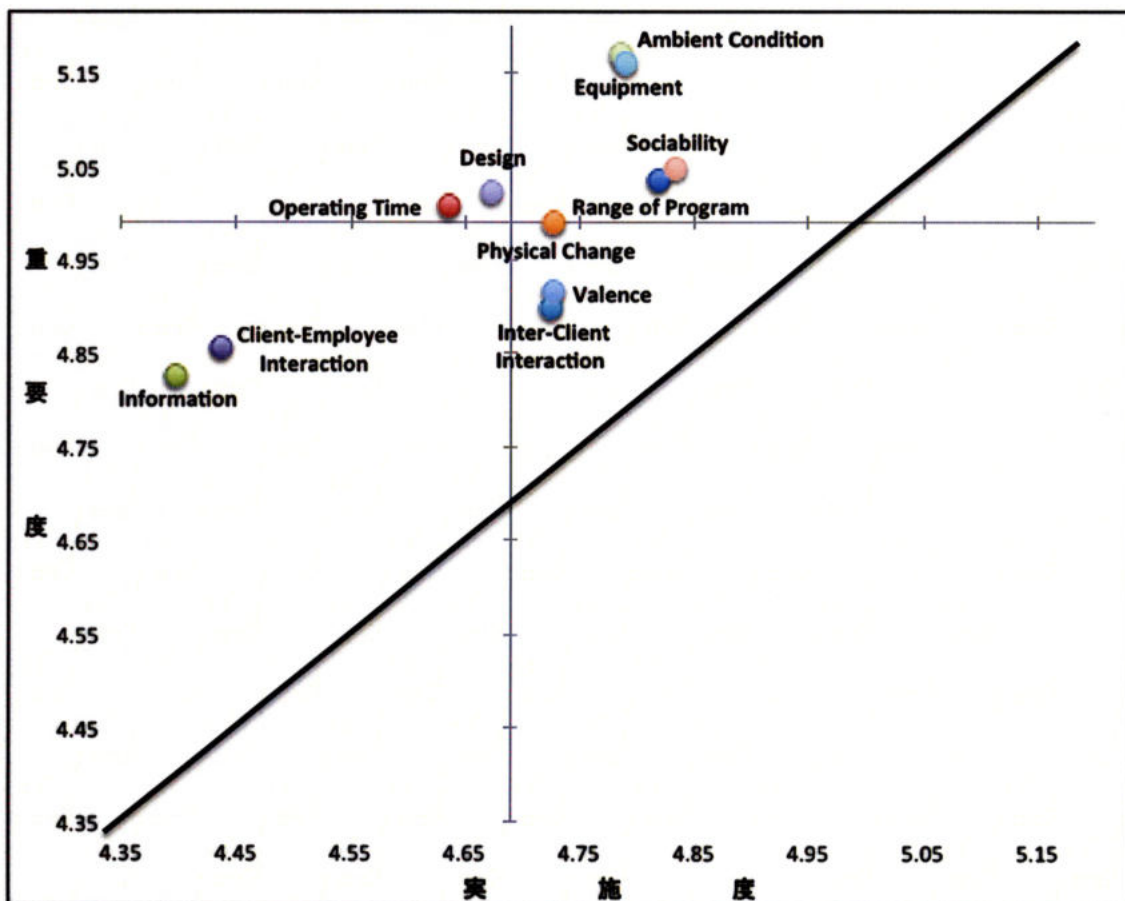


図 6 . スポーツ系大学の IP 分析

次に、11 因子の実施度と重要度に差があるのかを確認するため t 検定を行った。表 15 はスポーツ系大学の実施度と重要度の平均値と平均値の差、そして t 検定の結果を示している。その結果、Operating Time、Information、Client-Employee Interaction、Ambient Condition、Equipment に 0.1%水準、Range of Program、Physical Change、Sociability、Design に 1%水準で統計的に有意な差が認められた。有意な差が認められた 9 つの因子は、すべて重要度が実施度を上回っていたため、t 検定からも Range of Program、Operating Time、Information、Client-Employee Interaction、Physical Change、Sociability、Ambient Condition、Design、Equipment の 9 つの因子が Areas to Improve に配置されるということが明らかとなった。

表 15. スポーツ系大学の実施度と重要度の平均値と平均値の差の結果

	実施度		重要度		平均値の差	t値
	M	SD	M	SD		
スポーツ系 (n = 139)						
Range of Program	4.82	0.87	5.03	0.84	-0.22	-2.87 **
Operating Time	4.64	0.98	5.01	0.86	-0.37	-3.68 ***
Information	4.40	0.99	4.83	0.88	-0.43	-4.71 ***
Client-Employee Interaction	4.44	0.94	4.86	0.89	-0.42	-4.65 ***
Inter-Client Interaction	4.72	0.73	4.90	0.83	-0.18	-2.60
Physical Change	4.73	0.94	4.99	0.90	-0.26	-3.14 **
Valence	4.73	0.84	4.92	0.86	-0.19	-2.62
Sociability	4.83	0.90	5.05	0.95	-0.21	-3.16 **
Ambient Condition	4.78	0.94	5.17	0.89	-0.39	-4.60 ***
Design	4.67	1.05	5.02	0.93	-0.35	-3.43 **
Equipment	4.79	1.05	5.16	0.93	-0.37	-3.82 ***

** $p < .01$ *** $p < .001$

2) 非スポーツ系

まず、SSQRS の 11 因子において IP 分析を行った。図 7 は非スポーツ系大学の IP 分析の結果を示したものである。その結果、Valence は実施度、重要度共に平均値を上回ったので、Keep up the good work に配置された。Information と Ambient Condition は実施度、重要度共に平均値を下回ったので、Low Priority に配置された。Range of Program、Operating Time、Inter-Client Interaction、Physical Change、Sociability は重要度に関しては平均値を下回ったが、実施度は平均値を上回ったので、Possible Waste of Resources に配置された。そして Client-Employee Interaction、Design、Equipment は重要度に関しては平均値を上回ったが実施度は平均値を下回ったので、Areas to Improve に配置された。しかし斜め線を入れると、Operating Time、Physical Change、Sociability を除く 8 つの因子は Areas to Improve に配置された。また、Operating Time と Sociability は Waste of Resources に配置され、Physical Change に関しては Waste of Resources と Areas to Improve の間の斜め線の上に配置された。

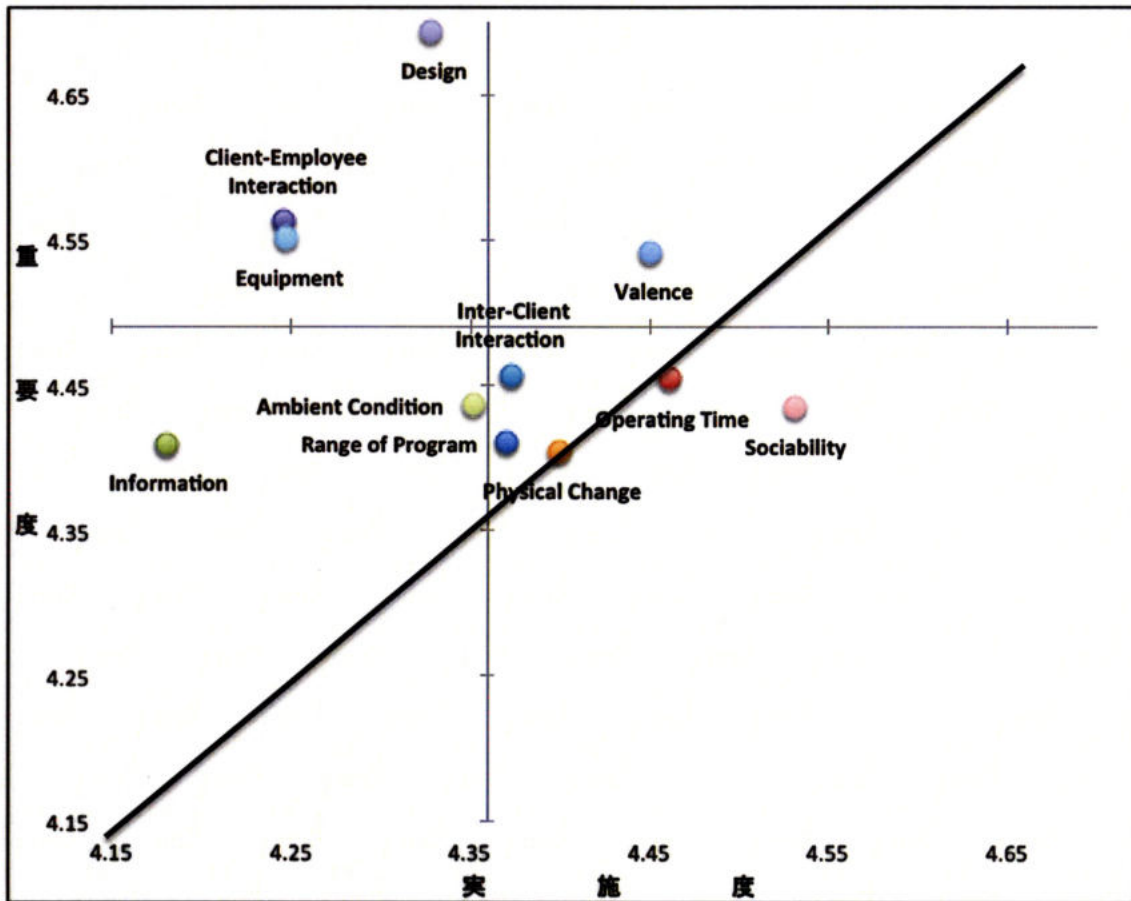


図7. 非スポーツ系大学の IP 分析

次に、11 因子の実施度と重要度に差があるのかを確認するため t 検定を行った。表 16 は非スポーツ系大学の実施度と重要度の平均値と平均値の差、そして t 検定の結果を示している。その結果、Client-Employee Interaction と Design に 1%水準で統計的に有意な差が認められた。有意な差が認められた 2 つの因子は、すべて重要度が実施度を上回っていたため、t 検定からも Client-Employee Interaction と Design の 2 つの因子が Areas to Improve に配置されるということが明らかとなった。

表 16. 非スポーツ系大学の実施度と重要度の平均値と平均値の差の結果

	実施度		重要度		平均値の差	t値
	M	SD	M	SD		
非スポーツ系 (n = 81)						
Range of Program	4.37	0.75	4.41	0.82	-0.04	-0.38
Operating Time	4.46	0.69	4.45	0.80	0.01	0.06
Information	4.18	0.76	4.41	0.79	-0.23	-2.06
Client-Employee Interaction	4.25	0.67	4.56	0.69	-0.32	-3.29 **
Inter-Client Interaction	4.37	0.66	4.46	0.78	-0.08	-1.02
Physical Change	4.40	0.72	4.40	0.74	0.00	-0.06
Valence	4.45	0.71	4.54	0.80	-0.09	-1.11
Sociability	4.53	0.76	4.44	0.92	0.10	0.96
Ambient Condition	4.35	0.73	4.44	0.72	-0.09	-0.95
Design	4.33	0.75	4.69	0.70	-0.37	-3.27 **
Equipment	4.25	0.88	4.55	0.89	-0.30	-2.17

** p < .01

3. タイプ3 (スポーツに関する学生支援が基準以上、スポーツに関する学生支援が基準以下) の結果

1) スポーツに関する学生支援が基準以上の大学

まず、SSQRS の 11 因子において IP 分析を行った。図 8 はスポーツに関する学生支援が基準以上の大学の IP 分析の結果を示したものである。その結果、Ambient Condition は実施度、重要度共に平均値を上回ったので、Keep up the good work に配置された。Information、Client-Employee Interaction、Physical Change は実施度、重要度共に平均値を下回ったので、Low Priority に配置された。Range of Program、Inter-Client Interaction と Valence は重要度に関しては平均値を下回ったが、実施度は平均値を上回ったので、Possible Waste of Resources に配置された。Sociability は実施度に関しては平均値を上回ったが、重要度は平均値と同じだったので、Keep up the good work と Possible Waste of Resources の間に配置された。Operating Time は実施度に関しては平均値を下回ったが、重要度は平均値と同じだったので、Areas to Improve と Low Priority の間に配置された。そして Design と Equipment は重要度に関しては平均値を上回ったが実施度は平均値を下回ったので、Areas to Improve に配置された。しかし斜め線を入れると、全ての因子は Areas to Improve に配置された。

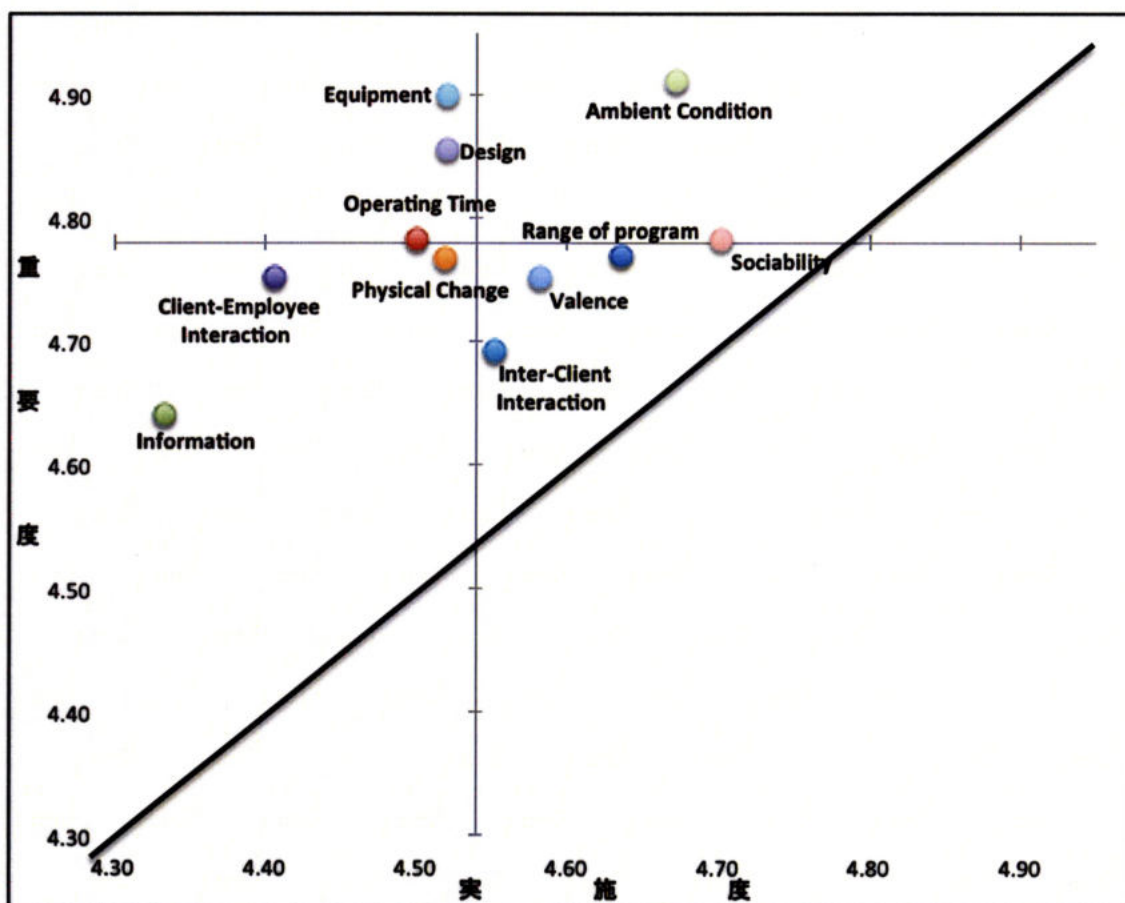


図 8. スポーツに関する学生支援が基準以上の大学の IP 分析

次に、11 因子の実施度と重要度に差があるのかを確認するため t 検定を行った。表 17 はスポーツに関する学生支援が基準以上の大学の実施度と重要度の平均値と平均値の差、そして t 検定の結果を示している。その結果、Client-Employee Interaction に 0.1%水準、Information、Ambient Condition、Design、Equipment に 1%水準で統計的に有意な差が認められた。有意な差が認められた 5 つの因子は、すべて重要度が実施度を上回っていたため、t 検定からも Information、Client-Employee Interaction、Ambient Condition、Design、Equipment の 5 つの因子が Areas to Improve に配置されるということが明らかとなった。

表 17. スポーツに関する学生支援が基準以上の大学の実施度と重要度の平均値と平均値の差の結果

	実施度		重要度		平均値の差	t値
	M	SD	M	SD		
基準以上 (n = 112)						
Range of Program	4.64	0.86	4.77	0.85	-0.13	-1.46
Operating Time	4.50	0.86	4.78	0.87	-0.28	-2.53
Information	4.33	0.94	4.64	0.84	-0.31	-3.08 **
Client-Employee Interaction	4.41	0.88	4.75	0.79	-0.35	-3.68 ***
Inter-Client Interaction	4.55	0.75	4.69	0.84	-0.14	-1.72
Physical Change	4.52	0.87	4.77	0.84	-0.25	-2.62
Valence	4.58	0.85	4.75	0.81	-0.17	-2.12
Sociability	4.70	0.89	4.78	1.02	-0.08	-0.93
Ambient Condition	4.67	0.86	4.91	0.86	-0.24	-2.73 **
Design	4.52	1.04	4.86	0.90	-0.34	-3.05 **
Equipment	4.52	1.07	4.90	0.94	-0.38	-3.24 **

** $p < .01$ *** $p < .001$

2) スポーツに関する学生支援が基準以下の大学

まず、SSQRS の 11 因子において IP 分析を行った。図 9 はスポーツに関する学生支援が基準以下の大学の IP 分析の結果を示したものである。その結果、Range of Program、Sociability、Equipment は実施度、重要度共に平均値を上回ったので、Keep up the good work に配置された。Information と Client-Employee Interaction は実施度、重要度共に平均値を下回ったので、Low Priority に配置された。Inter-Client Interaction、Physical Change、Valence は重要度に関しては平均値を下回ったが、実施度は平均値を上回ったので、Possible Waste of Resources に配置された。Operating Time は実施度に関しては平均値を上回ったが、重要度は平均値と同じだったので、Keep up the good work と Possible Waste of Resources の間に配置された。そして Ambient Condition と Design は重要度に関しては平均値を上回ったが実施度は平均値を下回ったので、Areas to Improve に配置された。しかし斜め線を入れると、全ての因子は Areas to Improve に配置された。

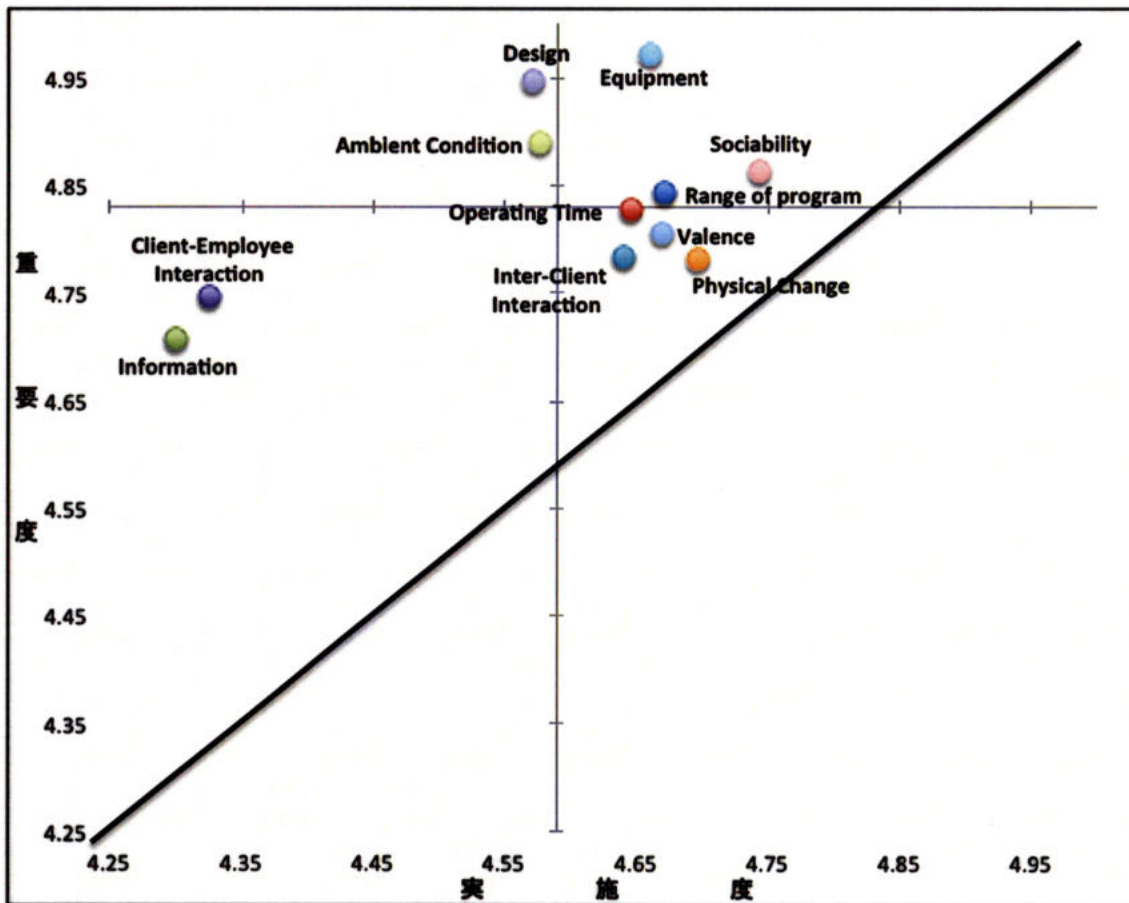


図9. スポーツに関する学生支援が基準以下の大学の IP 分析

次に、11 因子の実施度と重要度に差があるのかを確認するため t 検定を行った。表 18 はスポーツに関する学生支援が基準以下の大学の実施度と重要度の平均値と平均値の差、そして t 検定の結果を示している。その結果、Information と Client-Employee Interaction に 0.1%水準、Ambient Condition、Design、Equipment に 1%水準で統計的に有意な差が認められた。有意な差が認められた 5 つの因子は、すべて重要度が実施度を上回っていたため、t 検定からも Information、Client-Employee Interaction、Ambient Condition、Design、Equipment の 5 つの因子が Areas to Improve に配置されるということが明らかとなった。

表 18. スポーツに関する学生支援が基準以下の大学の実施度と重要度の平均値と平均値の差の結果

	実施度		重要度		平均値の差	t値
	M	SD	M	SD		
基準以下 (n = 108)						
Range of Program	4.67	0.86	4.84	0.92	-0.17	-2.07
Operating Time	4.65	0.92	4.83	0.89	-0.18	-1.81
Information	4.30	0.91	4.71	0.90	-0.41	-4.01 ***
Client-Employee Interaction	4.33	0.83	4.75	0.88	-0.42	-4.36 ***
Inter-Client Interaction	4.64	0.69	4.78	0.83	-0.14	-2.20
Physical Change	4.70	0.88	4.78	0.94	-0.09	-1.10
Valence	4.67	0.76	4.80	0.90	-0.14	-1.81
Sociability	4.74	0.83	4.86	0.94	-0.12	-1.61
Ambient Condition	4.58	0.93	4.89	0.96	-0.31	-3.41 **
Design	4.57	0.89	4.95	0.83	-0.38	-3.55 **
Equipment	4.66	0.98	4.97	0.98	-0.31	-2.86 **

** p < .01 *** p < .001

第3節 結果のまとめ

第1項 研究1の結果に関するまとめ

1. スポーツに関する学生支援は「施設・備品貸し出し」、「スポーツ大会」、「経済的支援」、「専門的サポート」、そして「競技力向上サポート」の大きく5つに分類された。
2. 国公立大学は私立大学より「施設・備品貸し出し」に関して設定している大学の割合が高い。
3. 私立大学は国公立大学より「競技力向上サポート」に関して設定している大学の割合が高い。
4. スポーツ系大学は非スポーツ系大学より「施設・備品貸し出し」、「経済的支援」、「専門的サポート」、そして「競技力向上サポート」に関して設定している大学の割合が高い。

第2項 研究2の結果に関するまとめ

1. タイプ1において、国公立大学では、11因子全てが Areas to Improve に配置され、Information、Client-Employee Interaction、Valence、Ambient Condition、Designの5つの因子において実施度と重要度に差が見られた。一方、私立大学でも11因子全てが Areas to Improve に配置され、Information、Client-Employee Interaction、Ambient Condition、Design、Equipmentの5つの因子において実施度と重要度に差

が見られた。

2. タイプ2において、スポーツ系大学では、11因子全てが **Areas to Improve** に配置され、**Range of Program**、**Operating Time**、**Information**、**Client-Employee Interaction**、**Physical Change**、**Sociability**、**Ambient Condition**、**Design**、**Equipment** の9つの因子において実施度と重要度に差が見られた。一方、非スポーツ系大学では2つの因子 (**Operating Time** と **Sociability**) が **Waste of Resources** に、**Physical Change** が **Waste of Resources** と **Areas to Improve** の間の斜め線の上に、残りの8因子は **Areas to Improve** に配置され、**Client-Employee Interaction** と **Design** の2つの因子において実施度と重要度に差が見られた。
3. タイプ3において、スポーツに関する学生支援が基準以上の大学では、11因子全てが **Areas to Improve** に配置され、**Information**、**Client-Employee Interaction**、**Ambient Condition**、**Design**、**Equipment** の5つの因子において実施度と重要度に差が見られた。一方、スポーツに関する学生支援が基準以下の大学でも11因子全てが **Areas to Improve** に配置され、**Information**、**Client-Employee Interaction**、**Ambient Condition**、**Design**、**Equipment** の5つの因子において実施度と重要度に差が見られた。

第5章 考察

本章では本研究において設定したリサーチ・クエスチョン1と2について、それぞれ考察を述べることにする。

第1節 ウェブサイト調査に対する考察

本研究のリサーチ・クエスチョン1は「日本の大学ではどのようなスポーツに関する学生支援を設定しているのか。また、大学の種類によって違いはあるのか」と設定した。

小倉⁴³⁾は、「一般学生が入学から卒業までスポーツのできる環境が実現できていない」と述べていた。そこで研究1として、日本の大学で行われているスポーツに関する学生支援の現状を各大学のウェブサイトを用いて調査し、明らかにした。

その結果、日本の大学では様々なスポーツに関する学生支援を設定していることが明らかとなり、「施設・備品貸し出し」、「スポーツ大会」、「経済的支援」、「競技力向上サポート」、そして「専門的サポート」といった5つのカテゴリにスポーツに関する学生支援を分類することができた。

5つのカテゴリに分類されたスポーツに関する学生支援において、4種類（国公立、私立、スポーツ系、非スポーツ系）の大学の中で、最も学生支援を設定している割合が高かった内容は「施設・備品貸し出し」だった。「施設・備品貸し出し」は基本的に年間を通じて行われている支援ではあるが、体育館やグラウンドは体育会や授業で使われていない時間に開放している大学がほとんどであり、一般学生はごく限られた時間でしか共有のスポーツ施設を利用できないことが窺える。

また、「スポーツ大会」は新入生のオリエンテーションや球技大会といった一時的なイベントになっているため、年間を通じた支援として見られなかった。さらに、「経済的支援」や「競技力向上サポート」、そして「専門的サポート」といった支援は、スポーツ推薦で入学してくる学生に対して奨学金を与えたり、体育会に所属している学生向けにプログラムを組んだりしていることから、一般学生には無縁の支援内容であることが窺える。

以上のことから、一般学生は「施設・備品貸し出し」や「スポーツ大会」などの支援は受けられているが、限られた時間内での一時的な支援となっている。一方、大学が行っているスポーツに関する学生支援の大部分は「経済的支援」や「競技力向上サポート」、そして「専門的サポート」といった体育会に所属している学生に向けた支援であり、小倉⁴³⁾の見解を支持する結果となった。

また、本調査での「施設・備品貸し出し」の設定割合は国公立大学（166校）で54.8%、私立大学（587校）で39.4%であった。しかし、日本学生支援機構³⁹⁾が行ったサークル活動に対する支援の実施調査では、「施設・物品の供与及び貸与」における国公立大学（162校）の実施率は95.1%、私立大学（577）は96.2%であった。この結果から、日本の大学はスポーツに関する学生支援を積極的に行っているが、その情報をウェブサイトで公開するという広報活動を積極的には行っていないことが明らかとなった。ウェブサイトでのスポーツに関する学生支援の情報と実際にサークルに対して行っている支援の割合が異なった要因として、ウェブサイトでの情報は受験生や保護者に向けた情報で、在学生に向けた情報ではないということが考えられる。

次に、国公立大学と私立大学でスポーツに関する学生支援の設定割合の比較を行った際、「施設・備品貸し出し」においては、国公立大学の方が私立大学よりも設定している大学の割合が高いことが明らかとなった。しかし、先行研究³⁹⁾では私立大学の方がわずかではあるが国公立大学より実施率が高いことから、先行研究³⁹⁾と相反する結果となった。このような結果になった理由として、本研究は筆者が大学のウェブサイトで公開されている情報のみでスポーツに関する学生支援を設定していると判断しているが、先行研究³⁹⁾では、大学の職員がサークルへの支援に関する質問に答えるという方法で実施状況を把握しており、データの抽出方法が異なるためであると考えられる。

また、スポーツ系大学と非スポーツ系大学との比較においては、「施設・備品貸し出し」、「経済的支援」、「競技力向上サポート」、「専門的サポート」において、スポーツ系大学の方が非スポーツ系大学よりも設定している大学の割合が高かった。この結果から、スポーツ系大学は一般学生の学生向けではなく、体育会所属の学生向けの支援を設定している傾向が窺える。このような結果になった理由として、スポーツ系大学は競技成績が優秀な学生を支援することで、全日本や世界大会で活躍してもらい、大学のアピールを行っていると考えられる⁵⁰⁾。

第2節 スポーツに関する学生支援における改善点に対するの考察

本研究のリサーチ・クエスチョン2は「大学生はスポーツに関する学生支援のどのようなサービスに対して改善を求めているのか」と設定した。

そこで研究2では、それぞれの大学を種類別に分類し、スポーツに関する学生支援に対する満足度を明らかにし、どのようなサービスに対して改善が必要かを明らかにした。こ

ここでは本研究における 11 因子の中で、信頼性が確認された 5 因子（Information、Client-Employee Interaction、Physical Change、Ambient Condition、Design）について考察を述べていく。

1. Information の結果に対する考察

サービスに関する最新情報の取得に関する“Information”の因子に関して、IP 分析と t 検定を行った。その結果、非スポーツ系を除く 5 つの種類（国公立、私立、スポーツ系、スポーツに関する学生支援が基準以上、スポーツに関する学生支援が基準以下）の大学において重要度と実施度に差があり、重要度が実施度を上回っていたことから Areas to Improve に配置された。しかし、5 つの種類（国公立、私立、スポーツ系、スポーツに関する学生支援が基準以上、スポーツに関する学生支援が基準以下）の大学において、Information の重要度はそれぞれの大学の重要度の平均値よりも低いため、Areas to Improve に配置されながら改善の必要性はあまり高くないことが窺える。情報の入手に対して改善が必要ないという結果は、先行研究²⁸⁾の結果を支持しなかったが、IP 分析を用いた本研究の結果は、松岡・佐藤²⁸⁾の研究とは異なる視点をもたらすといった意味で意義あるものと考えられる。

また、5 つの種類のうち国公立を除く 4 つの種類（私立、スポーツ系、スポーツに関する学生支援が基準以上、スポーツに関する学生支援が基準以下）の大学の Information の実施度の値は 4 を上回っており、わずかではあるが情報の取得に対して良い評価をしている。そのため、ある程度はスポーツに関する学生支援に対して認識していることが推察されるため、先行研究⁵²⁾とは逆の結果となった。このような結果になった要因として、Information の重要度があまり高くなく、実施度との差が小さいために実施度の値が 4 を超えたことが考えられる。

2. Client-Employee Interaction に対する考察

従業員が利用者のサービスに対する評価に影響を与える“Client-Employee Interaction”の因子に関して IP 分析と t 検定を行った。その結果、全 6 種類（国公立、私立、スポーツ系、非スポーツ系、スポーツに関する学生支援が基準以上、スポーツに関する学生支援が基準以下）の大学において重要度と実施度に差があり、重要度が実施度を上回っていたことから Areas to Improve に配置された。特に国公立大学は Client-Employee Interaction

の実施度が4を下回っており、他の5つの種類（私立、スポーツ系、非スポーツ系、スポーツに関する学生支援が基準以上、スポーツに関する学生支援が基準以下）の大学においては実施度と重要度の差が、それぞれの種類の大学における実施度と重要度の差の中でも大きいこと、サークル担当職員の業務の質に関して改善の必要性が高いことが窺える。改善の必要性が高い要因として、サークル活動への支援を担当する職員が専門的な人材でないこと¹⁸⁾や、施設の管理を学生に任せている⁶⁾ということが挙げられている。このことから、学生任せの管理体制に限界がきていることが推察される。また、施設の利用をためらう要因に「手続きの煩雑さ」があり⁹⁾、施設利用手続きにおける担当職員の対応が不十分であることが、改善の必要性が高くなった要因と考えられる。

サークル担当の職員に対して改善が求められるという結果は、先行研究²⁸⁾の担当職員の仕事の一部である「利用手続き」に対して改善の必要があるという結果と一致している。一方、担当職員の仕事全体を評価している「スタッフの対応」に高い評価を得ているという結果とは異なる知見が本研究から得られた。

本研究では学生だけを対象にしているが、先行研究²⁸⁾は、大学スポーツ施設を利用して人々を対象としており、対象者の約8割が40歳以上の中高年者であったことが先行研究²⁸⁾と異なった結果の原因であると考えられる。以上の結果から、学生は担当職員の仕事全体は評価できるが、仕事一つ一つに対しては評価が異なることが推察される。

3. Physical change に対する考察

体力や技術の向上に関する“Physical Change”の因子に関して、IP分析とt検定を行った。その結果、スポーツ系大学において重要度と実施度に差があり、重要度が実施度を上回っていたことから Areas to Improve に配置された。しかし、スポーツ系大学における Physical Change の因子は実施度においてはスポーツ系大学の実施度の平均値を上回っており、重要度は平均値と同じということで、改善の必要性はあまり高くないことが窺える。

すなわち、スポーツ系大学において Physical Change の因子が実施度の平均値を上回っているが重要度が実施度を上回ったため Areas to Improve に配置された要因として、スポーツ系大学では日頃から学生がスポーツを実施する目的である健康の維持・増進⁵⁷⁾が図れる質の高い支援が行われているため実施度は平均値を上回ったが、スポーツ系大学の学生はより質の高い支援を求めているためより重要度が高くなったと考えられる。

4. Ambient Condition に対する考察

施設的环境条件に関する“**Ambient Condition**”の因子に関して、IP分析とt検定を行った。その結果、非スポーツ系を除く5つの種類（国公立、私立、スポーツ系、スポーツに関する学生支援が基準以上、スポーツに関する学生支援が基準以下）の大学において重要度と実施度に差があり、重要度が実施度を上回っていたことから**Areas to Improve**に配置された。特にスポーツに関する学生支援が基準以下の大学は**Ambient Condition**の重要度は平均値を上回っているが実施度が平均値を下回っているため、施設的环境条件に関して改善の必要性が高いことが窺える。しかし、5つの種類の大学のうちスポーツに関する学生支援が基準以下の大学を除く4つの種類（国公立、私立、スポーツ系、スポーツに関する学生支援が基準以上）の大学の**Ambient Condition**は実施度、重要度共にそれぞれの大学の実施度と重要度の平均値を上回っているため、改善の必要性は高くないことが窺える。

すなわち、**Ambient Condition**に対する5つの種類の大学のうちスポーツに関する学生支援が基準以下の大学を除く4つの種類（国公立、私立、スポーツ系、スポーツに関する学生支援が基準以上）の大学の結果は、先行研究²⁸⁾と同様の結果となったが、スポーツに関する学生支援が基準以下の大学の結果は先行研究²⁸⁾とは異なる結果となった。スポーツに関する学生支援が基準以下の大学において施設的环境条件に対して改善の必要性が高くなった要因としてスポーツに関する学生支援が基準以下の大学の学生は、大学スポーツ施設を利用している割合が他の5つの種類の大学よりも高いため、大学施設の雰囲気や清潔さに対する重要度が高くなったことが考えられる。

5. Design に対する考察

施設の機能面や審美面に関する“**Design**”の因子に関して、IP分析とt検定を行った。その結果、全6種類（国公立、私立、スポーツ系、非スポーツ系、スポーツに関する学生支援が基準以上、スポーツに関する学生支援が基準以下）の大学において重要度と実施度に差があり、重要度が実施度を上回っていたことから**Areas to Improve**に配置された。特に私立大学を除く5つの種類（国公立、スポーツ系、非スポーツ系、スポーツに関する学生支援が基準以上、スポーツに関する学生支援が基準以下）の大学は**Design**の重要度は平均値を上回っているが実施度が平均値を下回っているため、施設の機能面や審美面に

して改善の必要性が高いことが窺える。しかし、私立大学の Design は実施度、重要度共に私立大学における実施度と重要度の平均値を上回っているため、改善の必要性は高くないことが窺える。

すなわち、全6種類（国公立、私立、スポーツ系、非スポーツ系、スポーツに関する学生支援が基準以上、スポーツに関する学生支援が基準以下）の大学では、施設の機能面や審美面に関する“Design”の因子が Areas to Improve に配置されたことから、大学施設のデザインが魅力的でなく、機能面の安全性が確保されていないことが推察される。しかし、私立大学においては改善の必要性は高くないことが窺えるため、学生が求めるデザインや機能面の安全性がある程度確保されていることが考えられる。

一方、先行研究¹²⁾より、施設の快適性がスポーツ施設の利用に影響を与えているということから、施設の機能面や審美面にたいして改善の必要性が窺われた5つの種類（国公立、スポーツ系、非スポーツ系、スポーツに関する学生支援が基準以上、スポーツに関する学生支援が基準以下）の大学において大学施設の機能やデザインを改善することで、学生がよりスポーツを実施しやすい環境を提供できると考えられる。

第3項 信頼性が確認されなかった因子に対する考察

研究2において、参加者に提供するクラス/プログラムの多様性や魅力に関する“Range of Program”、利用者にとって利用しやすいスケジュールに関する“Operating Time”、他の利用者がサービスに対する評価に影響を与える“Inter-Client Interaction”、サービスの結果が利用者の次回の利用に影響を与える“Valence”、社会的満足感から生じる正の社会的な経験に関する“Sociability”、備品や道具に関する“Equipment”の6因子は実施度と重要度のうちどちらか一方、もしくは両方において本研究で設定した信頼性の基準である α 係数の値（.70以上）に達しなかった。これらの因子の信頼性が確認できなかった原因は、プレテストは実施していたが、本研究で援用した尺度である SSQRS の質問内容を意味が変わらないように忠実に日本語に反映させたため、質問のニュアンスが日本人にとってわかりにくい項目があったからではないかと考えられる。

第6章 結 論

第1節 研究の概要

日本の大学では一般学生が入学から卒業までスポーツのできる環境は十分には整っていない。しかし、小倉⁴⁹⁾によれば、アメリカで行われているスポーツプログラムの提供や施設の貸し出しといったレクリエーション・ディパートメントのサービスは、日本の大学のスポーツと学生支援に対して良いモデルとなる可能性があることを指摘している。

そこで本研究の目的は、1) 日本の大学で行われているスポーツに関する学生支援の現状を明らかにし、大学の種類ごとにその学生支援の現状を比較すること、2) 現在実施されているスポーツに関する学生支援に対してどのような改善が求められているのかを大学の種類別に明らかにすることであった。

まず研究1では、日本の大学におけるスポーツに関する学生支援の現状を明らかにするため、日本の4年制大学753校のウェブサイトを開覧し、現状の把握を試みた。また、その結果を1) 国公立と私立大学、及び2) スポーツ系大学と非スポーツ系大学に大学を分類し、スポーツに関する学生支援の現状を比較した。

その結果、日本の大学では「施設・備品貸し出し」、「スポーツ大会」、「経済的支援」、「競技力向上サポート」、そして「専門的サポート」といったスポーツに関する学生支援が行われていることが明らかとなった。

さらに、スポーツに関する学生支援を設定している割合を大学のタイプ間内で比較したところ、国公立大学と非スポーツ系大学は一般学生の学生向けの支援を、私立大学とスポーツ系大学は体育会の学生向けの支援をウェブサイト上の表記ではより多く設定している傾向が見られた。また、日本の大学はスポーツに関する学生支援の情報をウェブサイトで公開するという広報活動を積極的には行っていないことも明らかとなった。

研究2では、スポーツに関する学生支援における改善点を明らかにするために、質問紙調査を実施した。本研究では、一般学生や教職員、地域住民へ向けた様々なスポーツプログラムやサービスを提供するアメリカの大学のレクリエーション・ディパートメントのサービスの質を測定する尺度(SSQRS)の質問項目を援用し調査を実施した。調査対象者は日本の大学においてレクリエーション・ディパートメントに最も近いと判断したスポーツ系サークル(同好会)に所属する学生であった。

研究2では、研究1で得られた753大学のスポーツに関する学生支援の設定状況を基に、新たに大学の種類を「スポーツに関する学生支援が基準以上の大学」と「スポーツに関す

る学生支援が基準以下の大学」の2つに分類した。さらに、スポーツに関する学生支援に対する改善点を明らかにする方法として、サービスの維持・改善戦略を考えるための有効な情報を得ることができる分析方法である IP 分析を行った。その結果、大学の種類別に改善を求めている支援内容が異なっていたことが明らかとなり、特に1)「サークル担当職員の対応」に対しては、国公立と非スポーツ系大学が、2)「施設的环境条件」に対してはスポーツに関する学生支援が基準以下の大学が、3)「施設の機能やデザイン」に対しては、私立大学を除く5つの種類(国公立、スポーツ系、非スポーツ系、スポーツに関する学生支援が基準以上、スポーツに関する学生支援が基準以下)の大学においてそれぞれ改善の必要性が高いことが明らかとなった。

今後、大学が新たな学生を確保するためにも、学生のニーズに即した学生支援の具体策がそれぞれの種類別の大学に求められる。アメリカの大学ではレクリエーション・ディパートメントが提供するスポーツプログラムや施設の開放といったスポーツに関するサービスが学生確保に良い影響を与えている²⁹⁾。そこで日本の大学においても、学生のニーズに応じたスポーツに関する学生支援の充実を図ることが重要であると考え。そこで、改善の必要性が高かった「サークル担当職員の対応」の改善策として、職員向けの講習会や他大学の職員との連携を図ることで、職員のスキルアップに繋がると考える。また、「施設的环境条件」と「施設の機能やデザイン」の改善策として、施設の改修や増築が考えられる。施設面の改善をすることで、学生の満足度が上がるだけでなく、大学のイメージアップにも繋がることが考えられる。

最後に、アメリカではレクリエーション・ディパートメントが提供するサービスは学生の成長に重要な役割を担っていることが明らかとなっている²⁹⁾。そこで、日本の大学においてもレクリエーション・ディパートメントのような一般の学生のみならず、教職員、地域住民を対象とした、体育会とは異なるステークホルダーへのスポーツを通じたサービスの提供を行う組織の設置が今後は必要であると考え。

第2節 研究の限界

本研究において、アメリカのレクリエーション・ディパートメントのサービスの質を評価するための尺度である SSQRS を援用するにあたり、英語の質問項目を日本語に翻訳し、さらに日本語から英語にバックトランスレーションを行った。英語から日本語に翻訳する際、英語の質問内容が忠実に日本語に反映されるように翻訳した。その結果、日本の大学

には存在しないレクリエーション・ディパートメントの概念に相当する項目がいくつか確認された。そのため、SSQRS を構成する 11 因子のうち 6 因子は信頼性を確認することができなかった。よって、この点はアメリカで開発された既存の尺度を援用した研究の限界と考えられる。

また、研究 2 の対象者の中でサークルの活動場所が「大学外のスポーツ施設」を利用している対象者も含めて分析を行っているため矛盾が生じているが、現状を把握するためには全ての対象者を分析に含めた方が良いと判断したため、矛盾が生じている旨を研究の限界とする。

第 3 節 今後の課題

本研究では、学生のスポーツに関する学生支援に対する実施度と重要度を測定するために、SSQRS を尺度として援用したが、研究の限界で述べたように、日本の大学にはあてはまらない項目がいくつかあったことから、11 因子ある中で 5 因子しか信頼性を確認することができなかった。そこで今後の課題として、日本の大学におけるスポーツに関する学生支援の実施度や重要度、さらに満足度をより正確に測定するためにも、新たな尺度の開発が必要であると考えられる。

また、今後はサークル活動への支援を実際に担当している職員やレクリエーション・スポーツの有識者に対してインタビュー調査を行い、スポーツに関する学生支援の実態をより深く明らかにする必要があると考えられる。

引用・参考文献

- 1) Abalo, J., Varela, J., & Manzano, V. (2007). Importance values for Importance-Performance Analysis: A formula for spreading out values derived from preference rankings. *Journal of Business Research*, 60(2), 115-121.
- 2) Chard, C., MacLean, J., & Faught, B. (2013). Managing Athletic Department Touch Points: A Case Study of One Institution Using Importance-Performance Analysis. *Journal of Intercollegiate Sport*, 6(2), 196-212.
- 3) 中央教育審議会 (2008). 学士課程教育の構築に向けて (答申). 文部科学省. Retrieved from http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2008/12/26/1217067_001.pdf
- 4) Forrester, S., Arterberry, C., & Barcelona, B. (2006). Student Attitudes Toward Sports and Fitness Activities After Graduation. *Recreational Sports Journal*, 30(2), 87-99.
- 5) Forrester, S., Ross, C. M., Hall, S., & Geary, C. (2007). Using Past Campus Recreational Sports Participation to Explain Current Physical Activity Levels of Alumni. *Recreational Sports Journal*, 31(2), 83-94.
- 6) 不動俊樹 (2004). 愛媛大学のサークル活動の現状と課題. *大学教育実践ジャーナル*, 2, 35-37.
- 7) 学校法人活性化・再生研究会 (2007). 私立学校の経営革新と経営困難への対応-最終報告-. 日本私立学校振興・共済事業団. Retrieved from http://www.shigaku.go.jp/s_center_saisei.pdf
- 8) Grant, R. R., Leadley, J., & Zygmunt, Z. (2008). *The Economics of Intercollegiate Sports*. World Scientific Publishing Co. Pte. Ltd., Retrieved from <http://www.worldscibooks.com/economics/6172.html>
- 9) 服部宏治・荒井貞光・東川安雄・迫俊道 (2002). 大学スポーツ施設開放に関する基礎的研究-指導者ニーズの視点から-. *広島体育学研究*, 28, 21-30.
- 10) Henchy, A. (2011). The Influence of Campus Recreation Beyond the Gym. *Recreational Sports Journal*, 35(2), 174-181.
- 11) 井街悠 (1996). キャンパス施設としての体育・スポーツ施設. *京都大学高等教育研*

- 究, 2, 101-107.
- 12) 五十嵐幸一 (2010). 大学スポーツ施設の利用と学生の志向との関係. *いわき明星大学人文学部研究紀要*, 23, 41-47.
 - 13) 飯干明・奥保宏・南貞己 (2003). 大学生における運動・スポーツの実施状況と阻害要因に関する調査研究. *鹿児島大学教育学部研究紀要教育科学編*, 54, 21-31.
 - 14) 池田和弘・根本武 (2013). 私立大「財務力ランキング」ベスト 30 半数近くの私立大が“赤字経営”. *東洋経済 ONLINE*. Retrieved from <http://toyokeizai.net/articles/-/12882>
 - 15) 井上功一・入口豊・太田順康・吉田雅行 (2001). 大学競技スポーツ組織の現状と今後の展望-アメリカ NCAA に焦点を当てて-. *大阪教育大学紀要*, 50(1), 193-210.
 - 16) 井上功一・入口豊・大久保悟 (2010). 日本の大学競技スポーツに関する一考察. *大阪教育大学紀要*, 59(1), 1-12.
 - 17) Knowledge Station (2014). 日本の大学 高校生のための大学進学ガイド. Knowledge Station ホームページ. Retrieved from http://www.gakkou.net/daigaku/guide/daigaku_1/guide001.html
 - 18) 小貫有紀子 (2009). 第3章 学生支援の組織と業務の役割分担に関する一考察 (大学職員の開発: 専門職化をめぐる). *RIHE*, 105, 24-36.
 - 19) Ko, Y. J., & Pastore, D. L. (2005). A hierarchical model of service quality for the recreational sport industry. *Sport Marketing Quarterly*, 14(2), 84-97.
 - 20) Ko, Y. J., & Pastore, D. L. (2007). An instrument to assess customer perceptions of service quality and satisfaction in campus recreation programs. *Recreational Sports Journal*, 31(1), 34-42.
 - 21) 久木留毅 (2014). イギリスにおける競技力向上に関する一考察-大学を活用したナショナルトレーニングセンター機能について. *専修大学スポーツ研究所紀要*, 42, 27-34.
 - 22) Kovac, D. C., & Beck, J. E. (1997). A comparison of student perceptions, satisfaction, and patterns of participation in recreational sports. *NIRSA Journal*, 22, 11-22.
 - 23) 蔵本健太・菊池秀夫 (2006). 大学生の組織スポーツへの参加動機に関する研究-体育会運動部とスポーツサークル活動参加者の比較-. *中京大学体育学論叢*, 41(1),

37-48.

- 24) 栗原満義 (1989). サークル活動の現状と課題. *大学と学生*, 288, 29-32.
- 25) Lindsey, R., & Sessoms, E. (2006). Assessment of a Campus Recreation Program on Student Recruitment, Retention, and Frequency of Participation Across Certain Demographic Variables. *Recreational Sports Journal*, 30, 30-39.
- 26) Lindsey, R. R. (2012). The Benefits and Satisfaction of Participating in Campus Recreational Sports Facilities and Programs Among Male and Female African American Students: A Pilot Study. *Recreational Sports Journal*, 36(1), 13-24.
- 27) Martilla, J. A., & James, J. C. (1977). Importance-performance analysis. *The journal of marketing*, 77-79.
- 28) 松岡宏高・佐藤馨 (2005). 大学スポーツ施設利用者のスポーツ活動状況とニーズ. *びわこ成蹊スポーツ大学研究紀要*, 2, 159-170.
- 29) 宮田雅之・宮地恵美子 (2008). Analysis データで読み解くアメリカのカレッジスポーツ. (SMR SPECIAL 米国のカレッジスポーツに「お金」が集まる理由. 徹底研究・米国大学の「ビジネス力」). *SMR*, 10, 31-33.
- 30) 望月知徳・桑原満・富田寿人 (2013). 大学生の生活習慣, 運動実施状況及びスポーツ情報への接触形態に関する調査研究. *静岡理工科大学紀要*, 21, 83-93.
- 31) 文部科学省 (2000). 大学における学生生活の充実方策について (報告): 学生の立場に立った大学づくりを目指して. 文部科学省. Retrieved from http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/012/toushin/000601.htm
- 32) 文部科学省 (2007). 新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム (学生支援GP). 文部科学省. Retrieved from http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kaikaku/gakusei.htm
- 33) 文部科学省 (2012). 若者のスポーツ参加機会の拡充や高齢者の体力づくり支援等ライフステージに応じたスポーツ活動の推進. *スポーツ基本計画*, 2, 15-21.
- 34) 文部科学省 (2013). 平成 25 年度 文部科学白書. 文部科学省. Retrieved from http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/hpab201401/1350715_015.pdf
- 35) 文部科学省 (2014 a). 学校基本調査. 文部科学省. Retrieved from http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa01/kihon/1267995.htm
- 36) 文部科学省 (2014 b). 設置計画履行状況等調査の結果等について(平成 25 年度). 文部

- 科学省. Retrieved from http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/26/02/1344114.htm
- 37) 内閣府 (2009). 週1回以上運動・スポーツを行う者の割合(年齢別). *体力・スポーツに関する世論調査*. Retrieved from http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/jisshi/___icsFiles/aficldfile/2010/06/29/1294610_2_1.pdf
- 38) 荷方邦夫・城崎英明・川上明孝 (2012). 金沢美術工芸大学における新しい学生支援－支援体制の研究と学生健康調査 (UPI) の実施結果報告－. *金沢美術工芸大学紀要*, 56, 11-19.
- 39) 日本学生支援機構 (2014). 「大学等における学生支援の取組状況に関する調査 (平成25年度)」集計報告 (単純集計). 独立行政法人日本学生支援機構. Retrieved from http://www.jasso.go.jp/gakusei_plan/documents/h25torikumi_chousa.pdf
- 40) 西井泰彦 (2001). 学生募集戦略と私立大学経営の課題. *アカルディア学報*, 26. Retrieved from <http://www.shidaikyo.or.jp/riihe/research/arcadia/0026.html>
- 41) 野口和行・近藤明彦・加藤大仁・山内賢 (2009). 慶應義塾大学大学生のスポーツ・運動行動に関する実態調査. *体育研究所紀要*, 48(1), 7-20.
- 42) 小倉乙春 (2013). 米国に於ける大学レクリエーショナル・スポーツ・プログラム－プログラムを中心とした現状報告－. *スポーツ産業学研究*, 23(1), 127-136.
- 43) 小倉乙春 (2014). 学生支援としての学内レクリエーショナル・スポーツ：米事例を中心とした報告. *スポーツマネジメント研究*, 6(1), 37-56.
- 44) 岡安功・伊藤央二・山口志郎 (2013). カナダ・アルバータ州の生涯スポーツ・レジャーと地域の関連性について. *生涯スポーツ学研究*, 9(1-2), 49-55.
- 45) 岡本純也 (2006). 大学運動部の現在 (特集 変貌する大学スポーツ). *現代スポーツ評論*, (14), 36-46.
- 46) Omata, Y. (2009). Country reports on students affairs and services around the world-Japan. *Student Affairs and Services in Higher Education: Global Foundations, Issues and Best Practices*, 9, 227-229. Retrieved from <http://unesdoc.unesco.org/images/0018/001832/183221e.pdf>
- 47) 小塩真司 (2004). SPSS と Amos による心理・調査データ解析：因子構造・共分散構造分析まで. 東京図書.
- 48) Pineda, O. S., Medina, J. P. C., Portillo, L. O. S., Anaya, G. E., & Sosa, F. L. (2009).

- Student affairs and services functions in higher education: professional services and programmes delivered for enhancement of student learning and success. *Student Affairs and Services in Higher Education: Global Foundations, Issues and Best Practices*, 8, 163-164. Retrieved from <http://unesdoc.unesco.org/images/0018/001832/183221e.pdf>
- 49) Rial, A., Rial, J., Varela, J., & Real, E. (2008). An application of importance-performance analysis (IPA) to the management of sport centres. *Managing Leisure*, 13(3-4), 179-188.
- 50) 坂本幸一 (2006). 少子化と私学経営の課題 少子化・高齢化との対策. 日本私立学校振興. 共済事業団, 103-115.
- 51) 嶋口光輝 (1984). 戦略的マーケティング理論-需要調整・社会対応・競争対応の科学-. 誠文堂新光社.
- 52) 澁川賢一 (2013). 東邦大学におけるスポーツ施設の役割と期待. 東邦大学教養紀要, 45, 85-97.
- 53) 私学経営情報センター (2013). 平成 25(2013)年度私立大学・短期大学等入学志願動向. 日本私立学校振興・共済事業団. Retrieved from <http://www.shigaku.go.jp/files/shigandoukou25s.pdf>
- 54) 私学経営相談センター (2007). 私立学校の経営革新と経営困難への対応-最終報告-. 日本私立学校振興・共済事業団. Retrieved from http://www.shigaku.go.jp/s_center_saisei.pdf
- 55) Shonk, D. J., Wallace Carr, J., & De Michele, P. E. (2010). Service Quality and Satisfaction Within Campus Recreation: The Moderating Role of Identification. *Recreational Sports Journal*, 34, 9-23.
- 56) 総務省 (2012). 統計から見たスポーツの今昔-「体育の日」にちなんで-. 総務省統計客統計調査部労働力人口統計室研究分析係. Retrieved from <http://www.stat.go.jp/data/topics/pdf/topics64.pdf>
- 57) 杉本龍勇・渡部近志 (2013). 大学生のスポーツ実施に対する目的および意欲と体育との関連に関する一考察～法政大学経済学部におけるケーススタディー～. 法政大学体育・スポーツ研究センター紀要, 31, 45-55.
- 58) スポーツ産業学会 (2013). 資料 スポーツ関連大学の入試情報一覧 (2013年度). ス

スポーツ産業学研究, 23(2), 253-257.

- 59) 体育施設出版 (2008). 充実度高まる大学スポーツ施設. *月刊体育施設*, 37(9), 24-41.
- 60) 谷田川ルミ (2012). 戦後日本の大学におけるキャリア支援の歴史的展開. *名古屋高等教育研究*, 12, 155-174.
- 61) 徳永敏文 (2006). 大学におけるスポーツ施設サービスに関する研究:デンマークコペンハーゲン大学のUSGのスポーツサービスに関して. *体育学研究*, 53, 173-186.
- 62) 友添秀則 (2006). 主張 大学スポーツという問題 (特集 変貌する大学スポーツ). *現代スポーツ評論*, (14), 6-15.
- 63) 山崎利夫・長積仁 (1994). 商業スポーツ施設のサービス・クオリティ評価に関する研究. *鹿屋体育大学学術研究紀要*, 11, 147-158.
- 64) 横山孝行 (2011). 大学のサークル支援に関する一考察. *東京工芸大学工学部紀要*, 34(2), 8-14.
- 65) Wankel, L. M., & Berger, B. G. (1990). The psychological and social benefits of sport and physical activity. *Journal of Leisure Research*, 22, 167-182.

Abstract

In recent years, Japanese universities are facing difficulty recruiting new students to their schools due to decline in birth rate and growing number of universities. Therefore, many universities fall into financial difficulties. Enhancing student affairs are considered effective to recruiting new students, however, “The Student Support GP”, which is a student support program provided by Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology, did not contain student support that specialize in sports. In addition, the low rate of students who participate in sports has also become a serious problem. Meanwhile, a department called the Recreation Department (RD) is available in universities within the United States, which offers sports programs to all students, faculties, staffs, and local residents, and it exerts positive influence on the recruiting of new students. Thus, considering the enhancement of student affairs in sports will have a beneficial effect on universities suffering from the recruitment of new students, and it will also contribute to increasing the participation of young student in sports.

The purposes of this study were to understand the present conditions of student affairs for sports availability at universities in Japan, compare the data from different types of universities, and to clarify what kind of services are required to improve for student affairs.

The researcher browsed the websites of universities in Japan, and analyzed the present condition of student affairs in sport. The researcher then conducted a survey using a questionnaire, which adopted the SSQRS to clarify the performance and importance among students, and figure out the necessary improvements through Importance-Performance Analysis regarding the student affairs of sport in each university. Results demonstrated that student affairs of sport could be classified into five categories. Results revealed that student affairs were not substantially carried out throughout the year. As a result of Importance-Performance Analysis, it was cleared that there was higher necessity to improve behavior of employees involved in the program, and also the design and atmosphere of facilities.

謝辞

本修士論文は、筆者が順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科博士前期課程在学中に、スポーツマネジメント研究室において行った研究をまとめたものである。同分野教授である北村薫先生には主査として、先任准教授である工藤康宏先生には副査としてご助言を頂き、ここに深謝の意を表す。

本論文執筆にあたって、健康医科学研究所の伊藤央二さんには、研究のデザインか分析方法までご助言を頂き、データ分析において、お力添えを頂いた。女性スポーツ研究センターの新井彬子さんには、質問項目の検討において、お力添えを頂いた。本学助教の伊藤真紀先生には英語の翻訳において、お力添えを頂いた。また、質問紙調査を実施する際には、様々な大学や先生や職員の方に協力していただき、貴重なデータを収集することができた。ここに深謝の意を表す。

そして、本学教授である小笠原悦子先生には指導教員として、多大なるご支援とご指導を頂いた。特に研究も論文も書いたことなかった筆者が修士論文を書き上げることができたのは、小笠原先生が研究や論文について1から辛抱強く丁寧に指導していただいたおかげである。ここに深謝の意を表す。

最後に、大学院へ通うことを許してくれた両親には遠く離れた場所からではあるが常に支えてもらい、ここに深謝の意を表す。今後、大学院で身につけた知識と経験を糧に、日本のスポーツ界の発展に貢献できるよう、日々精進していく所存である。

順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科
博士前期課程 スポーツマネジメント研究室

片山 洋平

添付資料 1

スポーツに関する学生支援の現状調査の結果

表 1. スポーツに関する学生支援の現状調査の結果

ID	タイプ1	タイプ2	施設・備品 貸し出し	スポーツ 大会	経済的支援	競技力向上 サポート	専門的 サポート	得点
1	私立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
2	私立	スポーツ系	0	0	0	0	0	0
3	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
4	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
5	私立	スポーツ系	1	0	0	0	0	1
6	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
7	私立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
8	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
9	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
10	国公立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
11	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
12	国公立	非スポーツ系	0	0	1	0	0	1
13	国公立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
14	国公立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
15	国公立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
16	国公立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
17	国公立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
18	私立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
19	私立	スポーツ系	0	0	1	0	0	1
20	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
21	私立	非スポーツ系	0	0	1	0	0	1
22	私立	非スポーツ系	0	1	0	0	0	1
23	私立	非スポーツ系	0	0	1	0	0	1
24	私立	スポーツ系	0	0	0	0	0	0
25	国公立	非スポーツ系	0	0	1	0	0	1
26	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
27	私立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
28	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
28	国公立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
30	私立	非スポーツ系	0	0	1	0	0	1
31	私立	非スポーツ系	0	0	1	0	0	1
32	国公立	スポーツ系	0	0	0	0	0	0
33	国公立	非スポーツ系	1	0	1	1	0	3
34	私立	非スポーツ系	0	1	0	0	0	1
35	私立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
36	国公立	非スポーツ系	1	1	0	0	0	2
37	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
38	私立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
39	私立	スポーツ系	0	1	0	0	0	1
40	私立	非スポーツ系	1	1	0	0	0	2
41	国公立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
42	国公立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
43	私立	スポーツ系	0	0	1	0	0	1
44	私立	非スポーツ系	0	1	0	0	0	1
45	私立	非スポーツ系	0	1	0	0	0	1
46	私立	非スポーツ系	0	1	0	0	0	1
47	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
48	国公立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
49	国公立	非スポーツ系	1	1	1	0	0	3
50	私立	非スポーツ系	0	1	0	0	0	1
51	私立	非スポーツ系	1	1	0	0	0	2
52	私立	非スポーツ系	1	1	0	0	0	2
53	国公立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0

(つづく)

表1. スポーツに関する学生支援の現状調査の結果

ID	タイプ1	タイプ2	施設・備品 貸し出し	スポーツ 大会	経済的支援	競技力向上 サポート	専門的 サポート	得点
54	国公立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
55	国公立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
56	私立	非スポーツ系	0	1	0	0	0	1
57	国公立	非スポーツ系	1	1	0	0	0	2
58	国公立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
59	私立	スポーツ系	1	0	0	0	0	1
60	私立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
61	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
62	私立	非スポーツ系	1	1	0	0	0	2
63	私立	非スポーツ系	0	1	0	0	0	1
64	国公立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
65	国公立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
66	国公立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
67	私立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
68	私立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
69	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
70	私立	スポーツ系	1	0	1	1	1	4
71	私立	非スポーツ系	1	1	0	0	0	2
72	私立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
73	私立	非スポーツ系	0	1	0	0	0	1
74	私立	非スポーツ系	0	1	0	0	0	1
75	私立	非スポーツ系	0	1	0	0	0	1
76	国公立	非スポーツ系	1	0	1	0	0	2
77	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
78	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
79	国公立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
80	国公立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
81	私立	非スポーツ系	1	1	0	1	0	3
82	国公立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
83	私立	非スポーツ系	1	1	0	0	0	2
84	私立	非スポーツ系	1	1	0	0	0	2
85	私立	非スポーツ系	1	1	0	0	0	2
86	私立	非スポーツ系	1	1	0	0	0	2
87	国公立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
88	国公立	スポーツ系	1	1	0	0	0	2
89	私立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
90	私立	非スポーツ系	1	1	0	0	0	2
91	国公立	非スポーツ系	1	0	1	0	0	2
92	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
93	私立	スポーツ系	1	0	0	0	0	1
94	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
95	私立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
96	私立	スポーツ系	0	1	0	1	0	2
97	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
98	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
99	私立	スポーツ系	0	0	0	1	0	1
100	私立	非スポーツ系	1	1	0	1	0	3
101	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
102	国公立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
103	国公立	非スポーツ系	1	1	0	0	0	2
104	私立	非スポーツ系	1	1	0	0	0	2
105	私立	非スポーツ系	1	1	0	0	0	2
106	国公立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1

(つづく)

表1. スポーツに関する学生支援の現状調査の結果

ID	タイプ1	タイプ2	施設・備品貸し出し	スポーツ大会	経済的支援	競技力向上サポート	専門的サポート	得点
107	私立	スポーツ系	0	0	0	0	0	0
108	国公立	非スポーツ系	0	1	0	0	0	1
109	私立	非スポーツ系	1	1	0	0	0	2
110	国公立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
111	私立	非スポーツ系	1	0	1	1	0	3
112	私立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
113	国公立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
114	国公立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
115	私立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
116	国公立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
117	私立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
118	国公立	スポーツ系	1	1	0	0	0	2
119	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
120	私立	スポーツ系	1	0	1	1	1	4
121	私立	非スポーツ系	0	0	1	0	0	1
122	私立	非スポーツ系	1	1	0	0	0	2
123	私立	非スポーツ系	0	1	0	0	0	1
124	私立	スポーツ系	1	0	0	1	0	2
125	私立	非スポーツ系	1	1	0	0	0	2
126	私立	非スポーツ系	1	1	0	0	0	2
127	私立	スポーツ系	1	1	0	0	0	2
128	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
129	私立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
130	私立	スポーツ系	0	0	0	0	0	0
131	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
132	国公立	非スポーツ系	1	0	1	0	0	2
133	国公立	非スポーツ系	1	0	1	0	0	2
134	私立	スポーツ系	0	0	0	1	0	1
135	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
136	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
137	私立	スポーツ系	0	0	1	1	0	2
138	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
139	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
140	私立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
141	私立	非スポーツ系	0	1	0	0	0	1
142	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
143	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
144	私立	非スポーツ系	1	1	0	0	0	2
145	私立	スポーツ系	0	1	0	0	0	1
146	私立	非スポーツ系	0	0	0	1	0	1
147	私立	非スポーツ系	0	1	0	0	0	1
148	私立	非スポーツ系	1	1	0	0	0	2
149	私立	スポーツ系	0	0	0	1	0	1
150	私立	スポーツ系	1	0	1	1	0	3
151	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
152	私立	非スポーツ系	0	0	1	0	0	1
153	私立	非スポーツ系	0	1	1	0	0	2
154	私立	非スポーツ系	1	1	0	0	0	2
155	私立	非スポーツ系	1	0	1	0	0	2
156	私立	非スポーツ系	0	1	0	0	0	1
157	私立	スポーツ系	0	1	1	1	0	3
158	私立	非スポーツ系	1	1	0	0	0	2
159	私立	非スポーツ系	0	0	1	0	0	1

(つづく)

表1. スポーツに関する学生支援の現状調査の結果

ID	タイプ1	タイプ2	施設・備品 貸し出し	スポーツ 大会	経済的支援	競技力向上 サポート	専門的 サポート	得点
180	私立	非スポーツ系	1	1	1	0	0	3
181	私立	非スポーツ系	0	0	1	0	0	1
182	私立	スポーツ系	0	1	1	0	0	2
183	私立	非スポーツ系	1	1	0	0	0	2
184	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
185	私立	非スポーツ系	0	1	0	0	0	1
186	私立	スポーツ系	0	0	0	1	0	1
187	私立	非スポーツ系	0	1	0	0	0	1
188	私立	スポーツ系	1	0	0	0	0	1
189	私立	非スポーツ系	1	1	0	0	0	2
190	私立	スポーツ系	0	0	1	0	0	1
191	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
192	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
193	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
194	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
195	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
196	私立	非スポーツ系	0	1	0	0	0	1
197	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
198	私立	非スポーツ系	0	1	0	0	0	1
199	私立	スポーツ系	0	1	0	0	0	1
200	私立	非スポーツ系	0	1	0	0	0	1
201	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
202	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
203	私立	非スポーツ系	0	1	1	0	0	2
204	私立	非スポーツ系	1	1	0	0	0	2
205	私立	非スポーツ系	1	1	1	0	0	3
206	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
207	私立	非スポーツ系	0	0	1	0	0	1
208	私立	スポーツ系	1	0	0	1	0	2
209	私立	非スポーツ系	1	1	1	0	0	3
210	私立	非スポーツ系	0	1	0	1	0	2
211	私立	非スポーツ系	0	0	1	0	0	1
212	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0

(つづく)

表1. スポーツに関する学生支援の現状調査の結果

ID	タイプ1	タイプ2	施設・備品 貸し出し	スポーツ 大会	経済的支援	競技力向上 サポート	専門的 サポート	得点
213	私立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
214	私立	スポーツ系	1	1	0	1	0	3
215	国公立	非スポーツ系	0	1	0	0	0	1
216	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
217	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
218	国公立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
219	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
220	私立	非スポーツ系	0	1	0	0	0	1
221	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
222	国公立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
223	私立	非スポーツ系	1	1	0	0	0	2
224	私立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
225	国公立	非スポーツ系	0	1	0	0	0	1
226	国公立	スポーツ系	0	0	0	0	0	0
227	国公立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
228	私立	非スポーツ系	1	1	0	0	0	2
229	国公立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
230	私立	非スポーツ系	1	1	0	0	0	2
231	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
232	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
233	私立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
234	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
235	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
236	私立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
237	私立	非スポーツ系	0	1	0	0	0	1
238	私立	スポーツ系	0	0	0	0	0	0
239	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
240	国公立	非スポーツ系	1	1	0	0	0	2
241	私立	非スポーツ系	0	1	0	0	0	1
242	私立	非スポーツ系	0	1	0	0	0	1
243	国公立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
244	私立	非スポーツ系	0	1	0	1	0	2
245	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
246	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
247	私立	非スポーツ系	0	1	1	0	0	2
248	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
249	私立	非スポーツ系	0	1	0	0	0	1
250	私立	スポーツ系	1	1	0	0	0	2
251	私立	非スポーツ系	0	1	0	0	0	1
252	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
253	私立	スポーツ系	1	0	0	1	1	3
254	私立	スポーツ系	1	0	1	0	0	2
255	私立	非スポーツ系	0	0	1	0	0	1
256	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
257	私立	非スポーツ系	1	1	0	0	0	2
258	国公立	非スポーツ系	1	1	0	0	0	2
259	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
260	私立	非スポーツ系	0	1	0	1	0	2
261	私立	スポーツ系	1	0	1	0	0	2
262	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
263	私立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
264	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
265	私立	非スポーツ系	0	0	0	1	0	1

(つづく)

表1. スポーツに関する学生支援の現状調査の結果

ID	タイプ1	タイプ2	施設・備品 貸し出し	スポーツ 大会	経済的支援	競技力向上 サポート	専門的 サポート	得点
266	私立	スポーツ系	1	0	1	0	0	2
267	私立	非スポーツ系	0	1	0	0	0	1
268	私立	非スポーツ系	0	1	0	0	0	1
269	私立	非スポーツ系	1	1	1	0	0	3
270	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
271	私立	スポーツ系	1	1	1	0	0	3
272	私立	非スポーツ系	0	0	1	1	0	2
273	私立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
274	私立	スポーツ系	1	0	1	1	1	4
275	私立	スポーツ系	1	0	1	1	0	3
276	私立	非スポーツ系	0	1	0	0	0	1
277	私立	非スポーツ系	0	1	0	0	0	1
278	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
279	国公立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
280	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
281	私立	スポーツ系	1	0	1	0	0	2
282	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
283	私立	スポーツ系	1	0	0	0	0	1
284	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
285	私立	非スポーツ系	0	1	0	0	0	1
286	私立	非スポーツ系	1	1	1	0	0	3
287	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
288	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
289	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
290	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
291	私立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
292	私立	非スポーツ系	0	1	0	0	0	1
293	私立	スポーツ系	0	0	0	1	0	1
294	私立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
295	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
296	私立	非スポーツ系	0	1	0	0	0	1
297	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
298	国公立	非スポーツ系	0	0	1	0	0	1
299	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
300	国公立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
301	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
302	私立	非スポーツ系	0	1	0	0	0	1
303	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
304	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
305	私立	スポーツ系	0	0	0	0	0	0
306	私立	非スポーツ系	1	0	1	0	0	2
307	私立	スポーツ系	0	0	1	0	0	1
308	私立	非スポーツ系	1	1	0	1	0	3
309	私立	スポーツ系	0	0	0	0	0	0
310	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
311	私立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
312	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
313	私立	非スポーツ系	1	1	0	0	1	3
314	私立	スポーツ系	0	0	0	1	0	1
315	私立	スポーツ系	1	0	1	0	0	2
316	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
317	私立	非スポーツ系	0	1	0	0	0	1
318	私立	非スポーツ系	0	1	0	0	0	1

(つづく)

表1. スポーツに関する学生支援の現状調査の結果

ID	タイプ1	タイプ2	施設・備品 貸し出し	スポーツ 大会	経済的支援	競技力向上 サポート	専門的 サポート	得点
319	私立	非スポーツ系	0	1	0	0	0	1
320	私立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
321	私立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
322	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
323	国公立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
324	私立	非スポーツ系	1	1	0	0	0	2
325	国公立	スポーツ系	0	0	1	0	0	1
326	私立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
327	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
328	私立	スポーツ系	1	0	0	0	0	1
329	私立	スポーツ系	0	0	1	0	0	1
330	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
331	私立	スポーツ系	1	0	0	0	0	1
332	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
333	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
334	私立	非スポーツ系	0	1	0	0	0	1
335	国公立	非スポーツ系	1	0	1	0	0	2
336	私立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
337	私立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
338	私立	スポーツ系	0	0	1	1	1	3
339	国公立	非スポーツ系	0	1	0	0	0	1
340	国公立	非スポーツ系	1	0	1	0	0	2
341	私立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
342	国公立	スポーツ系	1	0	0	0	0	1
343	私立	非スポーツ系	0	1	0	0	0	1
344	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
345	国公立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
346	私立	非スポーツ系	1	0	1	1	0	3
347	私立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
348	私立	スポーツ系	0	1	0	1	0	2
349	私立	非スポーツ系	1	1	1	1	0	4
350	国公立	非スポーツ系	0	0	1	0	0	1
351	国公立	非スポーツ系	1	1	0	0	0	2
352	国公立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
353	私立	非スポーツ系	1	0	1	0	0	2
354	私立	スポーツ系	1	1	0	1	0	3
355	私立	スポーツ系	1	0	1	1	0	3
356	国公立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
357	国公立	非スポーツ系	1	1	0	0	0	2
358	私立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
359	私立	非スポーツ系	1	1	0	1	0	3
360	私立	非スポーツ系	0	0	1	1	0	2
361	私立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
362	国公立	スポーツ系	1	0	0	0	0	1
363	私立	非スポーツ系	1	1	0	0	0	2
364	私立	非スポーツ系	1	1	0	0	0	2
365	私立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
366	国公立	非スポーツ系	1	1	0	0	0	2
367	私立	非スポーツ系	0	1	0	0	0	1
368	国公立	スポーツ系	1	0	0	0	0	1
369	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
370	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
371	国公立	非スポーツ系	1	0	1	0	0	2

(つづく)

表1. スポーツに関する学生支援の現状調査の結果

ID	タイプ1	タイプ2	施設・備品 貸し出し	スポーツ 大会	経済的支援	競技力向上 サポート	専門的 サポート	得点
372	国公立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
373	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
374	私立	スポーツ系	0	1	0	1	0	2
375	私立	非スポーツ系	1	0	0	0	1	2
376	私立	スポーツ系	0	0	0	0	0	0
377	国公立	スポーツ系	1	0	0	0	0	1
378	国公立	非スポーツ系	0	1	0	0	0	1
379	私立	スポーツ系	1	0	1	0	0	2
380	私立	非スポーツ系	1	0	1	0	0	2
381	国公立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
382	国公立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
383	私立	スポーツ系	1	0	1	0	0	2
384	国公立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
385	私立	スポーツ系	1	0	0	0	0	1
386	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
387	国公立	非スポーツ系	0	1	0	0	0	1
388	国公立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
389	私立	非スポーツ系	1	1	0	0	0	2
390	国公立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
391	私立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
392	私立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
393	私立	スポーツ系	1	1	0	0	0	2
394	国公立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
395	私立	非スポーツ系	0	1	0	0	0	1
396	私立	非スポーツ系	0	1	0	0	0	1
397	私立	スポーツ系	0	1	0	0	0	1
398	私立	スポーツ系	0	0	0	1	1	2
399	私立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
400	私立	非スポーツ系	1	1	1	0	0	3
401	私立	非スポーツ系	1	0	1	1	0	3
402	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
403	私立	スポーツ系	1	0	0	0	0	1
404	国公立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
405	国公立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
406	国公立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
407	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
408	私立	スポーツ系	0	0	1	0	0	1
409	私立	スポーツ系	1	0	0	0	1	2
410	私立	非スポーツ系	0	0	1	0	0	1
411	私立	スポーツ系	1	0	0	0	0	1
412	私立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
413	私立	スポーツ系	0	0	0	0	0	0
414	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
415	私立	非スポーツ系	0	1	0	0	0	1
416	私立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
417	私立	非スポーツ系	0	1	0	0	0	1
418	私立	非スポーツ系	0	0	1	0	0	1
419	私立	スポーツ系	0	0	1	1	0	2
420	私立	スポーツ系	1	1	1	1	1	5
421	私立	非スポーツ系	1	1	1	0	0	3
422	私立	スポーツ系	1	0	1	1	0	3
423	私立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
424	国公立	非スポーツ系	0	1	0	0	0	1

(つづく)

表1. スポーツに関する学生支援の現状調査の結果

ID	タイプ1	タイプ2	施設・備品 貸し出し	スポーツ 大会	経済的支援	競技力向上 サポート	専門的 サポート	得点
425	私立	非スポーツ系	0	1	0	0	0	1
426	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
427	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
428	私立	スポーツ系	0	0	1	1	0	2
429	私立	非スポーツ系	0	0	1	0	0	1
430	私立	非スポーツ系	1	0	1	0	0	2
431	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
432	国公立	非スポーツ系	0	0	1	0	0	1
433	私立	非スポーツ系	0	0	0	1	0	1
434	私立	非スポーツ系	0	1	1	1	0	3
435	国公立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
436	私立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
437	私立	非スポーツ系	0	1	0	0	0	1
438	国公立	非スポーツ系	1	1	0	0	0	2
439	私立	非スポーツ系	1	1	0	0	0	2
440	私立	非スポーツ系	1	1	1	0	0	3
441	私立	非スポーツ系	0	1	0	1	0	2
442	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
443	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
444	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
445	私立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
446	私立	スポーツ系	0	0	1	1	0	2
447	私立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
448	私立	スポーツ系	1	0	1	1	0	3
449	国公立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
450	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
451	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
452	国公立	非スポーツ系	1	0	1	0	0	2
453	国公立	非スポーツ系	0	1	0	0	0	1
454	私立	非スポーツ系	0	1	0	1	0	2
455	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
456	私立	スポーツ系	0	0	0	0	0	0
457	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
458	私立	スポーツ系	0	0	0	0	0	0
459	国公立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
460	国公立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
461	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
462	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
463	私立	スポーツ系	1	0	1	0	1	3
464	国公立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
465	国公立	非スポーツ系	0	1	0	0	0	1
466	国公立	非スポーツ系	0	0	1	0	0	1
467	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
468	私立	非スポーツ系	1	1	0	0	0	2
469	私立	非スポーツ系	0	1	0	0	0	1
470	私立	スポーツ系	0	0	0	0	0	0
471	私立	スポーツ系	1	1	0	0	0	2
472	私立	非スポーツ系	1	1	0	0	0	2
473	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
474	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
475	私立	非スポーツ系	0	0	0	1	0	1
476	国公立	非スポーツ系	1	0	1	0	0	2
477	国公立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0

(つづく)

表1. スポーツに関する学生支援の現状調査の結果

ID	タイプ1	タイプ2	施設・備品 貸し出し	スポーツ 大会	経済的支援	競技力向上 サポート	専門的 サポート	得点
478	国公立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
479	国公立	スポーツ系	1	0	0	0	0	1
480	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
481	私立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
482	国公立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
483	国公立	非スポーツ系	0	0	1	0	0	1
484	私立	非スポーツ系	1	0	1	0	0	2
485	私立	非スポーツ系	0	1	0	0	0	1
486	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
487	私立	非スポーツ系	0	1	0	0	0	1
488	私立	非スポーツ系	0	1	0	1	0	2
489	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
490	私立	非スポーツ系	0	1	0	0	0	1
491	私立	スポーツ系	1	0	1	1	0	3
492	国公立	非スポーツ系	0	0	1	0	0	1
493	国公立	非スポーツ系	1	1	0	0	0	2
494	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
495	国公立	非スポーツ系	1	1	0	0	0	2
496	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
497	私立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
498	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
499	私立	非スポーツ系	1	0	0	1	0	2
500	国公立	非スポーツ系	1	0	1	0	0	2
501	私立	非スポーツ系	0	1	1	0	0	2
502	国公立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
503	国公立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
504	私立	非スポーツ系	0	1	0	0	0	1
505	私立	非スポーツ系	0	1	0	0	0	1
506	私立	非スポーツ系	0	0	1	0	0	1
507	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
508	私立	スポーツ系	0	0	0	0	0	0
509	私立	非スポーツ系	0	1	0	0	0	1
510	私立	スポーツ系	1	1	1	1	1	5
511	私立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
512	私立	非スポーツ系	0	0	1	1	0	2
513	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
514	私立	非スポーツ系	0	1	0	0	0	1
515	私立	スポーツ系	1	0	1	1	0	3
516	私立	非スポーツ系	1	0	1	1	0	3
517	私立	スポーツ系	1	0	0	0	0	1
518	私立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
519	私立	スポーツ系	0	0	1	0	0	1
520	私立	非スポーツ系	1	0	1	0	0	2
521	私立	スポーツ系	0	0	0	0	0	0
522	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
523	私立	非スポーツ系	0	0	1	0	0	1
524	私立	非スポーツ系	1	1	1	0	1	4
525	私立	スポーツ系	0	0	1	0	0	1
526	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
527	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
528	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
529	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
530	私立	非スポーツ系	1	1	0	0	0	2

(つづく)

表1. スポーツに関する学生支援の現状調査の結果

ID	タイプ1	タイプ2	施設・備品 貸し出し	スポーツ 大会	経済的支援	競技力向上 サポート	専門的 サポート	得点
531	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
532	私立	スポーツ系	1	0	1	1	0	3
533	国公立	非スポーツ系	1	1	1	0	0	3
534	私立	非スポーツ系	0	0	1	0	0	1
535	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
536	私立	非スポーツ系	0	1	0	0	0	1
537	私立	非スポーツ系	0	1	0	0	0	1
538	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
539	私立	スポーツ系	1	1	1	1	1	5
540	国公立	非スポーツ系	1	0	1	0	0	2
541	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
542	私立	非スポーツ系	0	1	0	1	1	3
543	私立	非スポーツ系	0	1	0	0	0	1
544	私立	スポーツ系	1	0	0	1	0	2
545	国公立	非スポーツ系	0	1	0	0	0	1
546	私立	非スポーツ系	0	1	0	0	0	1
547	国公立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
548	私立	非スポーツ系	0	1	0	0	0	1
549	私立	非スポーツ系	0	1	0	0	0	1
550	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
551	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
552	私立	非スポーツ系	0	1	0	0	0	1
553	私立	スポーツ系	1	1	1	0	0	3
554	私立	非スポーツ系	0	0	1	0	0	1
555	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
556	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
557	私立	非スポーツ系	1	0	1	0	0	2
558	私立	非スポーツ系	1	1	0	0	1	3
559	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
560	私立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
561	私立	スポーツ系	1	0	1	0	0	2
562	私立	非スポーツ系	1	0	1	0	0	2
563	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
564	私立	スポーツ系	0	0	0	1	0	1
565	私立	スポーツ系	1	0	1	0	0	2
566	私立	非スポーツ系	1	0	0	1	0	2
567	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
568	私立	スポーツ系	1	0	1	0	1	3
569	私立	非スポーツ系	0	0	0	1	0	1
570	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
571	私立	非スポーツ系	1	0	1	0	0	2
572	私立	スポーツ系	0	0	0	0	0	0
573	私立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
574	私立	スポーツ系	1	0	0	0	0	1
575	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
576	私立	非スポーツ系	0	1	0	0	1	2
577	私立	非スポーツ系	1	1	1	0	0	3
578	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
579	私立	非スポーツ系	1	0	1	0	0	2
580	私立	非スポーツ系	0	1	0	0	0	1
581	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
582	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
583	私立	非スポーツ系	1	0	1	0	0	2

(つづく)

表1. スポーツに関する学生支援の現状調査の結果

ID	タイプ1	タイプ2	施設・備品貸し出し	スポーツ大会	経済的支援	競技力向上サポート	専門的サポート	得点
584	私立	スポーツ系	0	1	0	0	0	1
585	私立	非スポーツ系	1	1	1	1	0	4
586	私立	非スポーツ系	0	1	0	0	0	1
587	国公立	非スポーツ系	0	1	0	0	0	1
588	国公立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
589	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
590	私立	非スポーツ系	0	0	1	0	0	1
591	私立	スポーツ系	1	1	1	0	0	3
592	私立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
593	私立	非スポーツ系	0	1	1	0	0	2
594	国公立	スポーツ系	1	1	1	0	0	3
595	私立	非スポーツ系	0	1	0	0	0	1
596	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
597	私立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
598	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
599	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
600	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
601	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
602	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
603	国公立	非スポーツ系	1	1	0	0	0	2
604	国公立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
605	私立	スポーツ系	1	0	1	1	0	3
606	私立	スポーツ系	0	0	1	0	0	1
607	私立	スポーツ系	0	1	1	1	0	3
608	私立	非スポーツ系	0	1	1	1	0	3
609	私立	スポーツ系	1	0	1	0	0	2
610	私立	非スポーツ系	0	1	0	0	0	1
611	私立	非スポーツ系	1	1	1	0	0	3
612	私立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
613	国公立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
614	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
615	国公立	非スポーツ系	1	1	1	0	0	3
616	私立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
617	私立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
618	私立	スポーツ系	1	0	0	1	1	3
619	私立	スポーツ系	1	1	0	0	0	2
620	私立	スポーツ系	0	0	0	0	0	0
621	私立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
622	私立	非スポーツ系	1	0	1	0	0	2
623	国公立	非スポーツ系	0	1	0	0	0	1
624	私立	非スポーツ系	1	1	0	0	0	2
625	私立	非スポーツ系	1	1	0	0	0	2
626	私立	非スポーツ系	1	1	0	0	0	2
627	私立	非スポーツ系	0	1	0	0	0	1
628	私立	非スポーツ系	1	1	1	0	0	3
629	私立	非スポーツ系	1	0	1	0	0	2
630	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
631	国公立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
632	私立	非スポーツ系	1	1	0	0	0	2
633	私立	スポーツ系	1	0	0	0	0	1
634	私立	非スポーツ系	1	1	0	1	0	3
635	私立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
636	国公立	非スポーツ系	1	0	1	0	0	2

(つづく)

表1. スポーツに関する学生支援の現状調査の結果

ID	タイプ1	タイプ2	施設・備品 貸し出し	スポーツ 大会	経済的支援	競技力向上 サポート	専門的 サポート	得点
637	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
638	国公立	非スポーツ系	1	0	1	0	0	2
639	国公立	スポーツ系	0	0	0	0	0	0
640	私立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
641	私立	非スポーツ系	0	1	0	0	0	1
642	国公立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
643	私立	非スポーツ系	1	1	0	0	0	2
644	私立	スポーツ系	1	1	0	0	0	2
645	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
646	国公立	非スポーツ系	1	1	0	0	0	2
647	国公立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
648	国公立	非スポーツ系	1	1	1	0	0	3
649	国公立	非スポーツ系	1	1	0	0	0	2
650	私立	非スポーツ系	0	1	0	0	0	1
651	私立	スポーツ系	1	0	0	1	0	2
652	国公立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
653	私立	スポーツ系	1	1	0	0	0	2
654	私立	スポーツ系	1	1	0	0	0	2
655	私立	非スポーツ系	0	0	1	0	0	1
656	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
657	国公立	非スポーツ系	0	0	1	0	0	1
658	国公立	非スポーツ系	0	1	0	0	0	1
659	私立	非スポーツ系	1	1	1	0	0	3
660	私立	非スポーツ系	0	1	1	0	0	2
661	国公立	スポーツ系	0	1	0	0	0	1
662	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
663	国公立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
664	国公立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
665	国公立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
666	私立	スポーツ系	0	1	1	0	0	2
667	私立	非スポーツ系	0	0	1	0	0	1
668	国公立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
669	国公立	スポーツ系	1	0	1	0	0	2
670	私立	スポーツ系	1	0	1	0	1	3
671	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
672	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
673	国公立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
674	国公立	非スポーツ系	1	1	1	0	1	4
675	国公立	スポーツ系	1	0	0	0	0	1
676	私立	非スポーツ系	0	0	1	0	0	1
677	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
678	私立	スポーツ系	1	0	0	0	0	1
679	私立	スポーツ系	0	0	1	0	0	1
680	私立	非スポーツ系	0	1	0	0	0	1
681	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
682	私立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
683	国公立	非スポーツ系	0	1	0	0	0	1
684	国公立	非スポーツ系	0	0	1	0	0	1
685	私立	非スポーツ系	1	0	0	0	1	2
686	私立	非スポーツ系	0	1	0	1	1	3
687	国公立	非スポーツ系	0	1	0	0	0	1
688	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
689	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0

(つづく)

表1. スポーツに関する学生支援の現状調査の結果

ID	タイプ1	タイプ2	施設・備品 貸し出し	スポーツ 大会	経済的支援	競技力向上 サポート	専門的 サポート	得点
690	国公立	非スポーツ系	1	1	0	0	0	2
691	私立	非スポーツ系	0	1	1	0	0	2
692	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
693	私立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
694	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
695	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
696	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
697	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
698	私立	非スポーツ系	1	0	1	0	0	2
699	私立	非スポーツ系	1	1	0	0	0	2
700	私立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
701	国公立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
702	国公立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
703	私立	非スポーツ系	1	0	1	0	0	2
704	私立	非スポーツ系	1	1	0	0	0	2
705	私立	非スポーツ系	0	1	0	0	0	1
706	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
707	国公立	非スポーツ系	0	1	0	0	0	1
708	私立	スポーツ系	1	0	0	0	0	1
709	私立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
710	国公立	非スポーツ系	1	0	1	0	0	2
711	私立	スポーツ系	0	0	0	0	0	0
712	私立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
713	私立	非スポーツ系	1	1	0	0	0	2
714	私立	非スポーツ系	0	0	0	1	0	1
715	私立	非スポーツ系	0	1	0	0	0	1
716	国公立	非スポーツ系	1	0	1	0	0	2
717	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
718	私立	非スポーツ系	0	1	0	0	0	1
719	国公立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
720	私立	非スポーツ系	1	1	0	1	0	3
721	私立	非スポーツ系	0	1	0	0	0	1
722	私立	非スポーツ系	0	1	0	0	0	1
723	私立	非スポーツ系	1	1	0	0	0	2
724	国公立	非スポーツ系	1	1	0	0	0	2
725	国公立	非スポーツ系	0	1	1	0	0	2
726	私立	非スポーツ系	1	1	0	0	0	2
727	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
728	私立	非スポーツ系	0	1	0	0	0	1
729	私立	非スポーツ系	0	1	0	0	0	1
730	国公立	非スポーツ系	1	1	0	0	0	2
731	国公立	非スポーツ系	0	0	1	0	0	1
732	私立	スポーツ系	1	0	0	1	0	2
733	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
734	私立	スポーツ系	1	1	1	0	0	3
735	私立	スポーツ系	0	1	0	0	0	1
736	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
737	国公立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
738	国公立	非スポーツ系	1	1	0	0	0	2
739	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
740	国公立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
741	私立	非スポーツ系	0	1	0	0	0	1
742	私立	非スポーツ系	0	0	1	0	0	1

(つづく)

表1. スポーツに関する学生支援の現状調査の結果

ID	タイプ1	タイプ2	施設・備品 貸し出し	スポーツ 大会	経済的支援	競技力向上 サポート	専門的 サポート	得点
743	私立	非スポーツ系	0	1	0	0	0	1
744	国公立	非スポーツ系	1	0	0	0	0	1
745	国公立	スポーツ系	1	0	1	1	1	4
746	私立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
747	私立	非スポーツ系	1	1	0	0	0	2
748	国公立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
749	国公立	非スポーツ系	0	0	0	0	0	0
750	私立	非スポーツ系	1	1	1	0	0	3
751	私立	非スポーツ系	0	0	1	0	0	1
752	国公立	スポーツ系	0	1	1	0	0	2
753	国公立	非スポーツ系	1	1	1	0	0	3

添付資料 2

質問紙

表 2. 質問紙

スポーツに関する学生支援のアンケート調査														
本調査はスポーツ系サークル(同好会)に所属している大学生を対象に、大学で行われているスポーツに関する学生支援の現状とニーズを明らかにすることを目的として実施しています。ご回答は匿名で頂き、全て統計的に処理致しますので、個人の情報が公開されたり個人が特定されることは決してございません。ご面倒とは存じますが、本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願いいたします。 順天堂大学大学院 スポーツマネジメント研究室 片山 洋平														
Q1. 次の事柄をご記入下さい。当てはまる番号1つに○をつけて下さい。														
1 性別	1. 男性 2. 女性													
2 学年	1. 1年生 2. 2年生 3. 3年生 4. 4年生													
3 学部	1. スポーツ系の学部 2. それ以外の学部													
4 スポーツ(運動)経験 (※ 運動部やスポーツクラブでの定期的な活動) (※ 体育の授業は含まない)	小学生 1. 行っていた 2. 行っていない													
	中学生 1. 行っていた 2. 行っていない													
	高校生 1. 行っていた 2. 行っていない													
5 現在のスポーツ(運動)実施状況 (※ 体育会やサークル(同好会)での定期的な活動) (※ 所属形態は当てはまるものすべてに○をつけて下さい) (※ 体育の授業は含まない)	所属形態 1. 体育会 2. サークル(同好会) 3. 大学外のスポーツクラブ 4. 所属していない													
	活動場所 1. 大学スポーツ施設 2. 大学外のスポーツ施設 3. その他()													
	どのくらい 1. 週1~2回 2. 週3~4回 3. 週5回以上 4. その他													
Q2. サークルや同好会の事に関して、あなたがそれぞれの質問に「どのくらい現状に満足しているのか」と「どのくらい重要視しているか」について1~7の当てはまる番号1つに○をつけて下さい。質問は全部で49項目あります。 (※ 満足度と重要度のそれぞれにご回答下さい。)、(※ ○○大学には自分の大学を当てはめて下さい。)														
	満足度(現状)		重要度											
No. 質問項目	とても満足	満足	まあ満足	どちらでもない	少し不満	不満	とても不満	とても重要	重要	まあ重要	どちらでもない	あまり重要ではない	重要でない	全く重要ではない
1 ○○大学にはさまざまな(スポーツ種目の)クラス/プログラムがある。	7	6	5	4	3	2	1	7	6	5	4	3	2	1
2 スポーツ施設の開始時間は都合が良い。	7	6	5	4	3	2	1	7	6	5	4	3	2	1
3 サークル(同好会)や施設管理担当の職員とは電子メールで連絡する事は簡単である。	7	6	5	4	3	2	1	7	6	5	4	3	2	1
4 サークル(同好会)や施設管理担当の職員は彼らの仕事についてとても豊富な知識を持っているようだ。	7	6	5	4	3	2	1	7	6	5	4	3	2	1
5 ○○大学から提供されたプログラムの参加者は自分のプログラムのサービスの感じ方にポジティブな影響を与えている。	7	6	5	4	3	2	1	7	6	5	4	3	2	1
6 ○○大学が提供する(スポーツ種目の)プログラムを利用して、自分の身体能力のレベルが向上していると感じる	7	6	5	4	3	2	1	7	6	5	4	3	2	1
7 ○○大学から得られるものについて満足している。	7	6	5	4	3	2	1	7	6	5	4	3	2	1
8 ○○大学から提供された場所(プログラム)は多くの社会的交流の機会をもたらしてくれる。	7	6	5	4	3	2	1	7	6	5	4	3	2	1
9 ○○大学の施設やプログラムの雰囲気は素晴らしい。	7	6	5	4	3	2	1	7	6	5	4	3	2	1
10 ○○大学の施設は良くデザインされている。	7	6	5	4	3	2	1	7	6	5	4	3	2	1
11 ○○大学が提供する用具(エクササイズの用具やラケット等)は最新式である。	7	6	5	4	3	2	1	7	6	5	4	3	2	1
12 ○○大学は幅広い(スポーツ種目の)クラス/プログラムを提供している。	7	6	5	4	3	2	1	7	6	5	4	3	2	1
13 (スポーツ種目の)クラス/プログラムの時間は都合が良い。	7	6	5	4	3	2	1	7	6	5	4	3	2	1
14 サークル(同好会)や施設管理の担当の職員はウェブ から簡単に問い合わせることができる。	7	6	5	4	3	2	1	7	6	5	4	3	2	1
15 サークル(同好会)や施設管理担当の職員が友好的であることを保証する。	7	6	5	4	3	2	1	7	6	5	4	3	2	1
16 ○○大学から提供されたプログラムの参加者に対して、概して好感を抱いている。	7	6	5	4	3	2	1	7	6	5	4	3	2	1
17 ○○大学が提供する(スポーツ種目の)クラス/プログラムは自分の身体能力を向上させるのに役立つ。	7	6	5	4	3	2	1	7	6	5	4	3	2	1
18 サークル(同好会)や施設管理担当の職員は素早く、満足のいくように問題を処理する。	7	6	5	4	3	2	1	7	6	5	4	3	2	1
19 ○○大学から提供されたプログラムの参加者間で、家族意識を感じる。	7	6	5	4	3	2	1	7	6	5	4	3	2	1
20 ○○大学の施設やプログラムの雰囲気は大学レクリエーションスポーツの場でまさに自分が探しているものである。	7	6	5	4	3	2	1	7	6	5	4	3	2	1

(つづく)

表 2. 質問紙

No.	質問項目	満足度(現状)							重要度						
		とても満足	満足	まあ満足	どちらでもない	少し不満	不満	とても不満	とても重要	重要	まあ重要	どちらでもない	あまり重要ではない	重要でない	全く重要ではない
21	〇〇大学の施設のレイアウトは自分の目的/要求に合っている。	7	6	5	4	3	2	1	7	6	5	4	3	2	1
22	〇〇大学ではさまざまな最新のエクササイズ用具が利用可能である。	7	6	5	4	3	2	1	7	6	5	4	3	2	1
23	〇〇大学は人気の(スポーツ種目の)クラス/プログラムを提供している。	7	6	5	4	3	2	1	7	6	5	4	3	2	1
24	〇〇大学はいくつか異なる時間帯で(スポーツ種目の)クラス/プログラムを提供している。	7	6	5	4	3	2	1	7	6	5	4	3	2	1
25	大学が主催するスポーツ関連活動やイベントで最新の情報を手に入られる。	7	6	5	4	3	2	1	7	6	5	4	3	2	1
26	サークル(同好会)や施設管理担当の職員は提供されているクラス/プログラムの参加者を自ら進んでサポートしている。	7	6	5	4	3	2	1	7	6	5	4	3	2	1
27	〇〇大学から提供されたプログラムの参加者はルールと規則を守っている。	7	6	5	4	3	2	1	7	6	5	4	3	2	1
28	〇〇大学が提供する(スポーツ種目の)クラス/プログラムを利用してから、自分の体力のレベルが向上していると感じる。	7	6	5	4	3	2	1	7	6	5	4	3	2	1
29	大学から提供された場所(プログラム)を離れるとき、たいがい気分が良い。	7	6	5	4	3	2	1	7	6	5	4	3	2	1
30	〇〇大学の(スポーツ種目の)クラス/プログラム参加を通じて、多くの友人を作った。	7	6	5	4	3	2	1	7	6	5	4	3	2	1
31	〇〇大学の施設は綺麗で良くメンテナンスされている。	7	6	5	4	3	2	1	7	6	5	4	3	2	1
32	〇〇大学の施設のデザインに感心している。	7	6	5	4	3	2	1	7	6	5	4	3	2	1
33	〇〇大学が提供する用具は使用可能な良い状態である。	7	6	5	4	3	2	1	7	6	5	4	3	2	1
34	〇〇大学で提供されている(スポーツ種目の)クラス/プログラムは魅力的である。	7	6	5	4	3	2	1	7	6	5	4	3	2	1
35	全体的にスポーツに関する学生支援の情報は簡単に手に入られる。	7	6	5	4	3	2	1	7	6	5	4	3	2	1
36	問題が起こった時には、サークル(同好会)の施設管理担当の職員は行動を起こす。	7	6	5	4	3	2	1	7	6	5	4	3	2	1
37	〇〇大学から提供されたプログラムの他の参加者は一貫して良いプログラムのサービスの印象を与えてくれると思う。	7	6	5	4	3	2	1	7	6	5	4	3	2	1
38	〇〇大学が提供する(スポーツ種目の)クラス/プログラムに参加してから、自分の能力のレベルが向上していると感じる。	7	6	5	4	3	2	1	7	6	5	4	3	2	1
39	〇〇大学が提供する(スポーツ種目の)クラス/プログラムの成果について好意的に評価している。	7	6	5	4	3	2	1	7	6	5	4	3	2	1
40	〇〇大学の(スポーツ種目の)クラス/プログラムでの社会的交流はとても楽しかった。	7	6	5	4	3	2	1	7	6	5	4	3	2	1
41	〇〇大学の施設の雰囲気には常に感心している。	7	6	5	4	3	2	1	7	6	5	4	3	2	1
42	〇〇大学の施設は美学的観点から魅力的である。	7	6	5	4	3	2	1	7	6	5	4	3	2	1
43	サークル(同好会)や施設管理担当の職員は電話で簡単に連絡がとれる。	7	6	5	4	3	2	1	7	6	5	4	3	2	1
44	サークル(同好会)や施設管理担当の職員は優秀である。	7	6	5	4	3	2	1	7	6	5	4	3	2	1
45	〇〇大学で行っている活動は自分のスキルパフォーマンスを向上させている。	7	6	5	4	3	2	1	7	6	5	4	3	2	1
46	〇〇大学の施設やプログラムの雰囲気をとても楽しんでいる。	7	6	5	4	3	2	1	7	6	5	4	3	2	1
47	〇〇大学の施設は安全で快適である。	7	6	5	4	3	2	1	7	6	5	4	3	2	1
48	大学から提供された場所(プログラム)を離れるとき、欲しかったものを手に入れたといつも感じる。	7	6	5	4	3	2	1	7	6	5	4	3	2	1
49	サークル(同好会)や施設管理担当の職員はそれぞれのレクリエーションスポーツ参加者の特別な要望を認識し、効果的に対応している。	7	6	5	4	3	2	1	7	6	5	4	3	2	1

以上で質問は終わりです。ご協力ありがとうございました。